

鵠沼

久 久 比 奴 末

はまゆうと桜貝と

海光るわが故里

第 8 1 号

鵠沼の歴史的家屋をたずねて⑥

鵠沼の『ホワイトハウス』

旧長谷川・斉藤邸(旧出光興産寮) 斉藤 徹 1

旅館『東屋』の記念碑 建立へ 編集委員会 8

特集

鵠沼海岸商店街100年の歴史 9

特集① 足で調べた鵠沼海岸商店街

510余軒の歴史と消長

..... 榛葉 敏行 伊藤 聖 内藤 喜嗣 有田 裕一 10

年代毎店名地図(折り込み) 地図 1~地図10

出店年代順リスト 15

特集② 座談会 わが商店街の歴史を語る

出席者 榎本一男 片野正勝 鯨井義一

榛葉敏行 浜野勇三

司 会 有田裕一 31

「鵠沼を語る会」活動の記録 総務委員会 47

編集後記

『新編相模風土記稿』(天保13年、1842)に、「鵠沼村久久比奴末半良」

とあり、当時は“くぐいぬま”と呼んでいたことが分かる。

鵠沼を語る会 発行

鵜沼の歴史的家屋をたずねて⑥

鵜沼の『ホワイトハウス』

旧長谷川・斉藤邸

(旧出光興産寮)

斉藤 徹

昨年(1999年)また一つ、鵜沼の風格のあった家屋が姿を消した。その建物は昭和初期、長谷川敬三氏によって高瀬通りの南側の砂丘の上に建てられた。第2次大戦中は外務省に勤めていた私の父、斉藤^{おとつぐ}音次(1895-1959)が所有し、戦後は外務省の管理下で進駐軍の接收を免れた。瀟洒な白亜の外観から、来訪の外務省の方は、鵜沼の「ホワイトハウス」と呼んでおられた。当時としては最高水準をいく2階建て洋館であった。

昭和30年からは、出光興産の保養所「出光寮」として、建築後70年の歳月を生き延びてきた。映画「悪女の季節」(主演山田五十鈴)や「すけっと稼業」(穴戸錠)、「錆びた鎖」(赤木圭一郎)などのロケに、ここが使われたこともあったという。まだまだ十分使用に耐えられるものであっただけに、保存の手を差し伸べられることもなく取り壊されたのは残念である。かつて、その家で少年時代を過ごした一人として、その記録をここに留めておくことにした。

昭和3年末に長谷川氏が建築

何分にも半世紀以上も昔のことで、当時私は中学生だった。時あたかも第2次大戦の真っ只中で、勉強もそこそこに、農村の勤労奉仕や軍需工場へ動員され、米軍機の機銃掃射を気にしながら、その日その日を精一杯過ごしてきた時代だったから、わが家を眺め回す余裕など全くなかった。両親はすでに他界していて、あの家の昔を知る人も少なくなった。

そういう訳で、どこから取り掛ればいいのか大分迷った。一つ年上の姉に相談したり、登記所に足を運んだりしていたところ、偶然にも姉や従姉や家内の知り合いが、この家を建てた長谷川さんと縁続きであった。世間は狭いものだと驚いていたら、今度は別のルートから、あの家に半世紀近くも住んでおられた管理人ご夫妻を紹介され、お話を聞くことができた。この記録は、それらの方々のお陰である。

大正末期から昭和初期にかけて高瀬通りの南側には、通りの名のもとになった高瀬さんの大邸宅の先に、これまた五千坪近くもあった上郎^{こうろう}さんの屋敷があるだけで、その先は松林が続いていた。北側には、のちに秩父宮が静養された旧神足邸^{こうたり}（その後は「わかもと和光寮」）の大きな高い砂山があったが、その先もしばらく人家はなかったという。通りは両側から老松が覆いかぶさって、戦前は昼間でも薄暗かった。

昭和3年（1928年）、この高瀬通りの「藤沢町鵠沼字川袋2431番地」、現在の「鵠沼桜が岡1-17-41」に清水組（現在の清水建設）の手によって一軒の洋館が建てられた。元の土地の持ち主は不詳である。その家には長谷川敬三・雅子夫妻と、聖心女学院に通う一人娘の春さんが住まわれた。敬三氏は鉄道省の技術系のトップ（技監？）として活躍されたというが、経歴はよく分からない。昭和8年には春さんが家督相続し、私の父は13年に春さんから購入した。

当時、父は外務省に勤務していたので、私たち一家は日本と外国の間を2～4年くらいの間隔で行き来しており、どういう経緯で父がこの家を買ったのかは詳らかでない。長谷川春さんは現在、都内に住んでおられるそうだが、89歳というご高齢のため、お話を聞くことは出来なかった。

当時の最高水準をいく純洋式

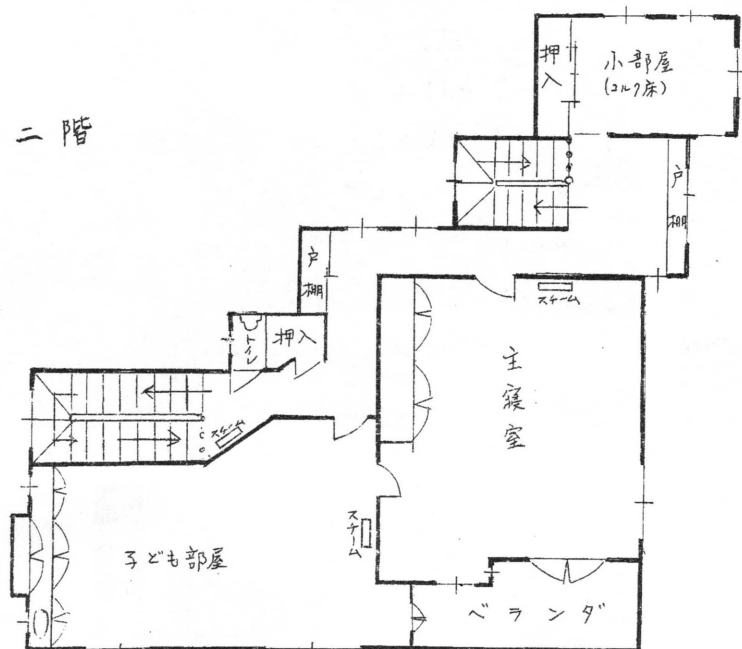
敷地面積は 3,655.04 m² (1,105余坪) で、高瀬通りに面した西隅の門から緩やかなスロープを80メートルほど進むと正面玄関に至る。建物の床面積は1階が199.83m² (60.45坪)、2階は154.47m² (46.73坪)、それに物置とポンプ小屋が付属していた。敷地内には北側の離れたところに2軒の小さい居宅があるが、これについては後述する。

建物は純洋式で、間取り図は右ページの通り。この図面は登記簿や残された写真などをもとに、姉が記憶をたどりながら再現してくれたもので、実際とは多少の差異があるかと思うが、姉・若林弘子の協力に感謝している。

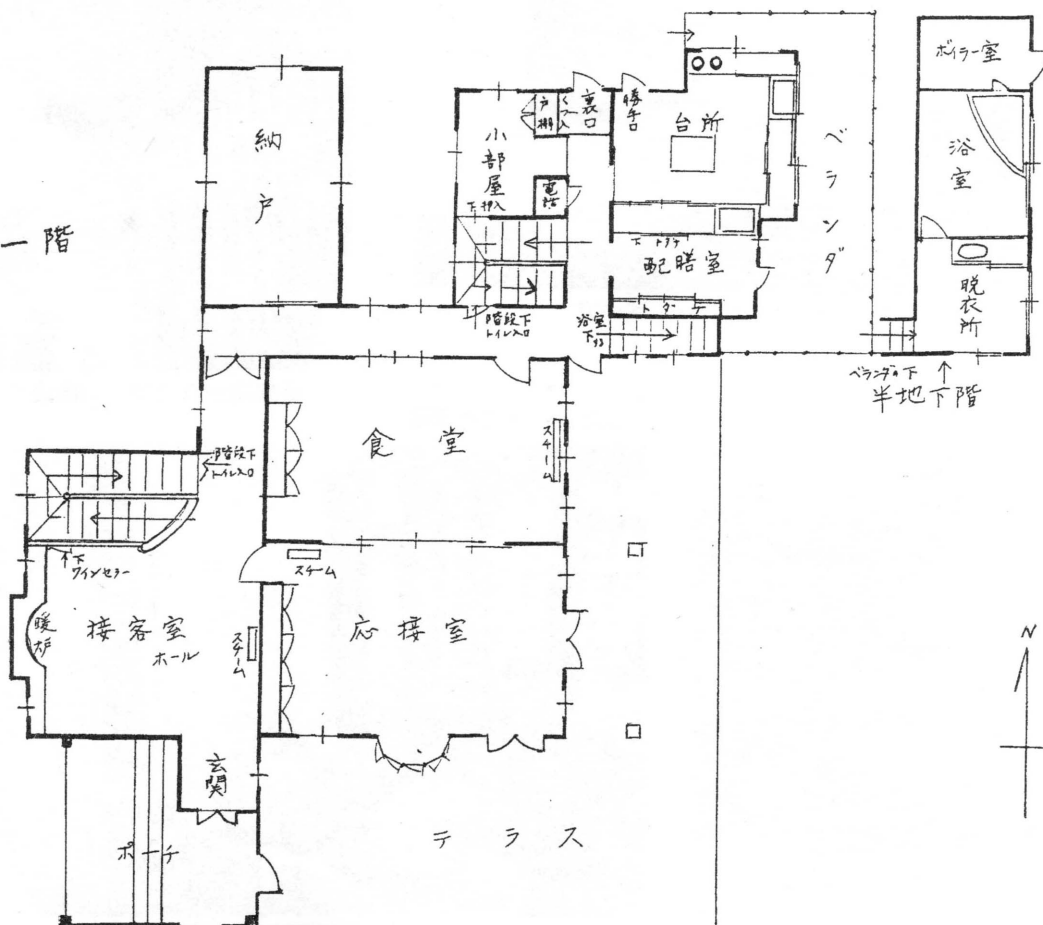
写真は「昭和4年5月18日」の日付のある六ツ切が8枚残っており、これは前年の昭和3年末に竣工（同年12月登記）、家具調度品を搬入して、これから生活を始めようという時点で、長谷川氏が専門家に撮影させたものと思われる。家屋の外観および各室が写っているが、食堂の写真は紛失している。

このほかに、昭和27年（1952）から平成11年（1999年）までの47年間、管理人として住んでおられたご夫妻が、ここを引き払われる直前の平成11年3月に

二階



一階





正門の「出光寮」標識



正門からスロープを上った玄関ポーチ



接客室の暖炉（下）と左側の窓



接客室から2階への階段



応接室の飾り戸棚（左）とライト
その下はスチーム

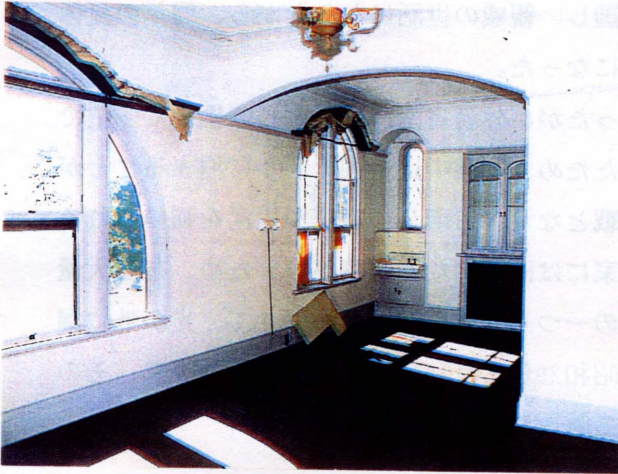
応接室の東側と南側



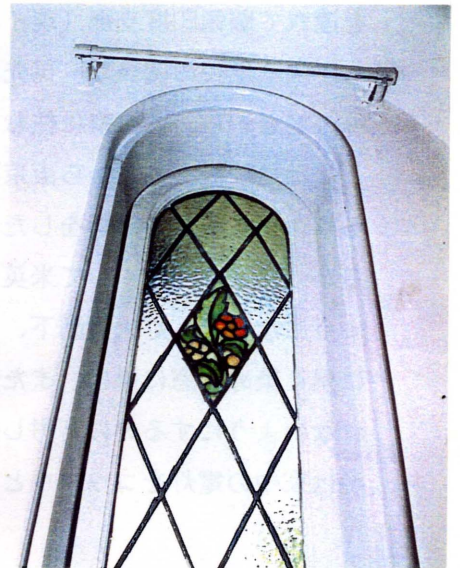


本館南側の全景（前面はテニスコート）

昭和30年代、数々の映画のロケに、この美しい建物が使われたという。



子ども部屋の南側の半円形窓



子ども部屋の窓飾り

食堂からガラス越しに応接室をみる



食堂の天井とペンダントライト

撮影されたカラー写真が86枚ある。今回この「鵠沼」に掲載した写真は、そのご好意によるものである。

改めて写真を見直すと、高瀬通りの道路から一段上がったところに、でんと構えた重厚にして風格のある家である。内部の細工はよく行き届いていて、当時の一般住宅としては最高水準をゆくものであったであろう。昭和4年と平成11年の写真を見比べても、机・椅子・カーテンなどを除けば、何ら変わっていない。シャンデリアもそのままである。ボイラーによるスチーム暖房が入っていた。もっとも戦時中は石炭が欠乏して暖房どころではなく、戦後は電気製品が普及して、やはり使われなかったとのことである。

前述のように父は昭和13年秋に、この土地・建物を購入し、その後すぐ家族を連れて蘭領印度支那（現インドネシア）に勤務、15年暮れに帰国した。私たち子供は学校の関係で一足先に帰国し、親戚の世話になりながら、同年の夏休みのときから、この家に住むことになった。

父は帰国後、ここから東京に通ったが、外務省南洋局長として極めて多忙であり、また胆石の手術をしたりしたため、在職中は帝国ホテルに泊まるが多かった。ほどなくして米英と開戦となり、日増しに窮屈な生活を強いられるようになった。灯火管制下、この家には雨戸がなく、窓が多いため、布を大量に黒く染めて窓に掛け、また電灯の一つ一つに黒頭巾をかぶせて、光が外に漏れないようにするのに苦労した。昭和20年8月15日終戦、灯火管制解除、その晩は家中の電灯をコウコウとつけて解放感を味わった。

外務省管理下で接收を免れる

米軍が進駐して来て、彼らが住む家の調達が始まった。住人を有無をいわず追い出すやり方だったと思う。わが家は純洋館なので、真っ先に目をつけられるだろうと父は心配した。そこで外務省と相談して（財）外務省精励会に買ってもらい、一家は昭和21年春に引っ越した。精励会がこの家を、どのように使ったかは分からないが、前述の管理人ご夫妻が昭和27年に住むようになったころは、外国人の家族がいたとのこと。いずれにしても余り有効に利用されていた形跡はない。

昭和30年に（株）出光興産が、この土地と建物を買い取ってからは、社員の保養所・研修所として使われた。南側の芝生とその先にあった築山を取り除いてテニスコートが1面つくられたが、屋内の大幅の模様替えなどはない。ただ

テニス利用者のために1階のトイレを改修している。

このトイレは手前が洋式、奥が和式になっていたが、和式のほうを洋式に変えて外から靴のまま入れるようにした。この工事をした大工が、建物がとても堅固に出来ているのに驚いて「工具のほうが壊れてしまいそうだ」と語っていたとのことである。私は父から「この家は関東大震災後に建てられたので、とても頑丈に出来ている」と聞いていた。

前述のように敷地は千余坪で、そのうち北側の約5分の1が一段低くなっていて、そこに梅・桃・いちじくなどの果樹を植えていた。そのうち戦時中の食糧難になってからは、ここを野菜畑に切り替えたが、その一角に小じんまりした平屋（床面積79.86 m²）が1棟建っていた。一時期、庭番が住んでいた。親戚の本を預かって書庫代わりに使っていたこともある。

記録によると、昭和36年に増改築されて、床面積は109.24m² となり、さらに昭和41年には別棟（1階部分16.52 m²、2階16.93 m²）が建てられた。戦後これらの家には、元外務次官でスイス大使を務められた奥村勝蔵・幸枝ご夫妻が住んでおられた。土地は借地である。奥村氏は25年ほど前に亡くなられ、夫人もまた2年前に世を去られた。

あまりの変貌ぶりに目を疑う

出光興産は平成11年9月、すべての建物を取り壊し、更地にして不動産業者に売却、業者は敷地を分割して、多数の家屋を建設した。

今回この記録をまとめるに当たり、現地の状況を確認に行ってきたが、一瞬目を疑うような姿であった。本館は高瀬通りより7～8メートル高く奥まったところに建てられていたが、いまや台地はほとんど取り払われて、石垣もなくなり、建物も松の木立も跡形なく消え失せて、どこをみても昔を偲ばせるものはなかった。20棟余りの住宅を建てるため業者が忙しく働き、トラックが次々出入りしていた。

野菜造りの肥料にするため、馬糞を拾って歩いた高瀬通りも、いまは車の往来が激しくて、おちおち歩いてはいられない。家の北側のだらだら坂を下った先に昔は沼があって、そこでトンボ釣りをしたり、トンボを餌にカエルをとったり、よその庭に忍び入って池のコイを失敬しているところを見つかつて、竿とバケツを放り出して這々の体で逃げたことなど…。喧騒な建築現場に立って、ふとフランス映画の「舞踏会の手帖」を思い出した。

旅館『東屋』の記念碑 建立へ

6月市議会で決定 旧本館の玄関跡地を予定

明治末期から大正にかけて、多くの文人たちが来遊した旅館『東屋』の記念碑が建てられることになった。設置場所には東屋旧本館の玄関跡地（鵜沼海岸2-8地先）が候補に挙げられていて、2001年3月末までには完成する見込み。従来、ともすればあいまいになりがちだった旅館「東屋」の所在地がこれで明確になる。「藤沢文化」発祥の地ともいえる鵜沼に建つ“文学碑第一号”としても、その建立を喜ぶたい。

記念碑の設置は、平成12年6月の市議会定例会で新年度補正予算が議決され、その中で正式に決まった。現在、市では設置候補地の土地所有者から最終的な了解を得るための折衝に入っており、本格的な設置工事が始まるのは平成13年に入ってからのことと思われる。

文学史的にも著名な旅館『東屋』は、明治25年ごろ、伊東将行・長谷川ゑいによって創業され、戦局迫る昭和14年、最後の経営者長谷川欣一によって閉ざされたが、とくに明治末から大正10年ごろにかけては、尾崎紅葉の硯友社に属する文士をはじめ、武者小路実篤、志賀直哉、谷崎潤一郎、宇野浩二、佐藤春夫、芥川龍之介、大杉栄ら日本近代文学史を飾る文学者たちが相次いで止宿、思想的・文学的立場を超えて談論風発し、それぞれの芸術を高めていったことはよく知られている。

旅館廃業後60年もたって『東屋』の歴史は風化し、その正確な所在地についてさえもあやふやに伝えられることが多くなっていた。

平成10年夏、財団法人『神奈川文学振興会』の理事であり、藤沢市民でもある作家・佐江衆一氏が、藤沢文化のいわば源流ともいえる『東屋』の名を惜しんで、藤沢市へ記念碑の設置を提唱、同市から『鵜沼を語る会』へも協力の要請があった。平成10年11月以降、市担当者と佐江氏、さらに『神奈川文学振興会』参与で元藤沢市教育長の小山文雄氏も加わり、『鵜沼を語る会』のメンバーを交えて幾度かの協議を重ねていた。

（編集委員会）

特集 鵠沼海岸商店街 100年の歴史

は じ め に

別荘地といわれた鵠沼に、本格的な商店が登場するのは、大正期に入ってからのことだと思われる。大正3年4月10日付『横浜貿易新報』に「旅館あづま家(注・鰹のこと)付近は本年に入り新築家屋非常に増加し、いづれも商業を為す目的にして一寸町の体裁を為すに至りしは珍しき発展といふべし」という記事が載っている。

しかし、実際の商業活動は、鵠沼別荘地に旅館、別荘が形成された明治30年代には始まっていた。地元の農家や漁師たちが御用聞きに入り注文の野菜や鮮魚を届けていたのである。従ってこのころを源流と考えれば、鵠沼海岸商店街の歴史はほぼ100年を経過したといってもよいであろう。にもかかわらずこれまで、鵠沼海岸商店街の歴史がきちんと語られることはほとんどなかった。今回、『鵠沼を語る会』では、地元商店街の有志の方の協力を得て、初めて本格的な調査を行うことができた。それが以下に紹介する二つの特集である。

特集① 「足で調べた鵠沼海岸商店街 510余軒の歴史と消長」

特集② 「座談会・わが商店街の歴史を語る」

特集①「足で調べた鵠沼海岸商店街 500余軒の歴史と消長」は、鵠沼海岸駅前で八百屋「八百力」を営み、『鵠沼を語る会』会員でもある榛葉敏行氏と同会員内藤喜嗣氏が、それこそ一軒一軒の店を足で尋ねてまとめあげた労作である。歴史的な資料調査、記述を伊藤聖、有田裕一両氏が担当した。こうした調査は他都市の商店街でも、あまり例がないのではなかろうか。

特集②「座談会・わが商店街の歴史を語る」は、地元とともに生き抜いて来た商店主たちが、初めて肉声で語ってくれた鵠沼海岸商店街100年の歴史の一端である。鵠沼の地域史としても貴重な証言であろう。

商店街の方々のご協力には心から感謝します。

足で調べた鵜沼海岸商店街 510余軒の歴史と消長

『鵜沼を語る会』会員

榛葉 敏行 伊藤 聖

内藤 喜嗣 有田 裕一

鵜沼の商店街の形成史は、そのまま鵜沼の開発史と重なっている。

鵜沼海岸の中心である「商店街」はもともと「鵜沼銀座」と呼ばれていた。「鵜沼海岸銀座」でなく「鵜沼銀座」といったところに、ここが鵜沼の中心であるという自負がうかがえるようである。

今回、鵜沼に開業した商店の歴史とその消長の跡ををたどってみた。その結果、商店街が形成された大正初期から現在に至るまでのほぼ90年の間に、鵜沼の地には延べでおよそ500余軒の店が開業したことが分かった。現在まで代替わりしながら継続している店、商売変えをした店、廃業した店などを含めてのことである。そうした商店の歴史をまとめたのが、後に示した年代ごとの店名地図と出店年代順リストである。調査にご協力いただいた商店主の方々にはあらためてお礼を申し上げたい。

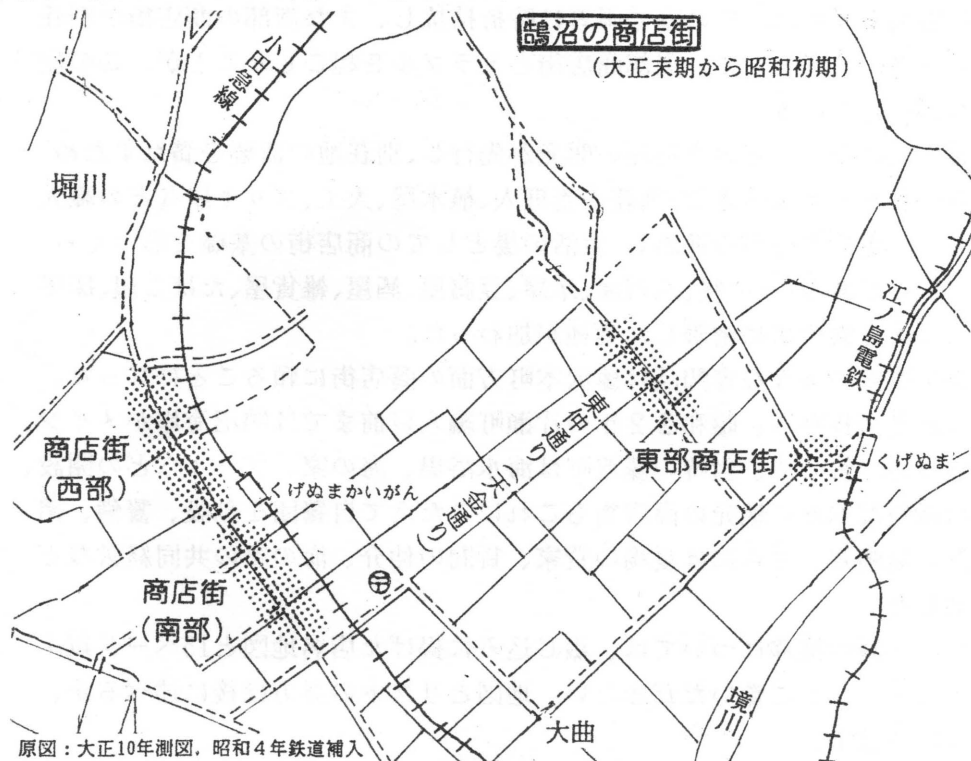


明治25年、伊東将行が旅館「東屋」を創設し、鵜沼の砂丘を別荘地として世に売り出そうと画策したときから、鵜沼一帯の開発は始まった。「東屋」と前後して「鵜沼館」「明治館」「対江館(中屋)」が開業し、東京からの海水浴客の往来も盛んになった。

本格的な商店が開業する前は、これらの旅館や別荘には地元の農家や漁師たちが御用聞きに入り、注文の野菜や鮮魚を届けていた。明治35年には江ノ電が開業し、すでに鵜沼駅も置かれていたが、駅前には客待ちの人力車がいるだけで、ここに商店街ができるのは、ずっとあとである。鵜沼海岸にも、明治末期にはまだ商店と呼べるほどのものは殆どなかった。従って厳密に言えば「商店街」としての歴史はほぼ90年ということになる。

大正期に入って、昔からの鵜沼の細い道に沿って商店街が形成され始めた。その古い道の一つは、いまの本鵜沼付近から鵜沼洋小学校の北を通り、湘南学園のグラウンドを斜めに横切って、昔の「購買部」や「ピノキオ」などの北側から

真直ぐ境川のほうまで延びる道である。



この道の途中から海岸のほうへ行く何本かの平行した道が作られた。そのうちの一つ「東仲通り(天金通り)」と交差するあたりに出来た商店街が、特集②の「座談会」(31ページ)に登場する「東部商店街」と呼ばれているものである。画家・岸田劉生の住んだ家もこの近くにあった。東部商店街は、もちろん店舗を構え、店売りもしてはいたが、なお御用聞きによる別荘への売り込みに重点が置かれていた。

もう一つの古い道は堀川の集落の南はずれから東南の片瀬方面へ延びているもので、のちに小田急江ノ島線がこれに平行した形で敷設された。この道に沿って出来たのが、いまのマリンロードの前身の商店街「鵠栄会」で、この商店街が発展して、のちに「西部」・「南部」と呼ばれた。座談会で語られているはこの「(西部)商店街」と「(南部)商店街」のことである。

この商店街は、別荘、旅館などへの御用聞きは別として、原・堀川などの農家が、道沿いに簡単な造作をして、スイカ、桃、飲み物などを並べ、海水浴客や旅館の滞在客を相手に商売したのが最初であろう。常設の店舗になったのは、大正期に入ってからだと思われる。このころになると、東仲通りと交差する南部にも、次々と商店が進出し始めた。

昭和4年の小田急江ノ島線の開通と鵠沼海岸駅の新設は、商店街にとって一大発展の契機となった。西部と南部の商店街は繋がって「鵠沼銀座」と呼

ばれる最盛期を迎えた。その陰で両者は時折拮抗し、また南部の商店街が別荘の御用聞きに入ろうとして、東部商店街とトラブルを起こしたことが、この座談会でも語られている。

鵜沼海岸では前述のとおり別荘の開発が先行し、別荘地の需要を満たすため商売が発生したと見るべきで、別荘の管理人、植木屋、大工、ブリキ屋などの職人が藤沢、辻堂、鵜沼本村から進出し、生活の場としての商店街の基礎を形づくったという特長がある。その後、八百屋、米屋、豆腐屋、酒屋、雑貨屋、たばこ屋、床屋(髪結い)など日常生活に密着した業種が加わった。

呉服、紙、農具のような専門品は藤沢本町方面の商店街に頼ることになった。

鵜沼の開発当時から、昭和22年の片瀬町編入以前までは鵜沼海岸がメインの観光地であったので、当時の藤沢町は海水浴場、海の家、プールなどの開設、誘致に積極的だった。地元の商店街もこれにこたえて自警団を創設、警備、消防、海浜の見張り、さらには夏場の貸家、貸間の仲介、海を家の共同経営などにも参加した。

こうした店舗の推移については、綴じ込みに掲げた店名地図と15ページ以下の出店年代順リストご覧いただきたい。地図とリストの見方は後に述べるが、店名地図は便宜上、

- ① 大正15年以前(1901～1926)
- ② 昭和10年以前(1927～1935)
- ③ 昭和20年以前(1936～1945)
- ④ 昭和30年以前(1946～1955)
- ⑤ 昭和40年以前(1956～1965)
- ⑥ 昭和50年以前(1966～1975)
- ⑦ 昭和60年以前(1976～1985)
- ⑧ 平成12年以前(1986～2000)

の八つの時代に区分した。

時代ごとの商店の消長の詳細は店名地図で見ていただきたいが、各時代の出・退店の状況、営業店数、鵜沼の時代状況をおおまかに仕分けたのが、13、14ページに掲げた表である。

この調査結果から、鵜沼商店街100年の歩みの中で、累計512店が開業し、うち236軒が店を閉めたことが分かった。2000年6月現在の調査時点で、鵜沼には振興組合非加盟の店も含めて276軒の店が営業している

	商店コード	出店数	退店数	営業店数	鵠 沼 の 時 代 状 況
① 大正15年以前 (1901～1926)	001～051	51		51	鵠沼海岸海水浴場開設(明19) 東屋旅館開業(明25) 江ノ電開通(明35) 鵠沼郵便局開局(明40) 別荘地に電灯がつく(明41)初の鵠沼住民懇親会開かる。 参加者70余名(明43)鵠沼海岸に店舗増加の記事(大3) 鵠沼に電話開設(大8) 関東大震災 鵠沼で死者47名(大12)
② 昭和10年以前 (1927～1935)	052～090	35	8	78	小田急江ノ島線開通(昭4) 鵠沼商業組合設立(昭5) 鉄道局「海の家」設置 藤沢駅間に商店街を通るバス運転 片道7銭(昭6) 商店街の一角に結核療養所計画。反対運動起こる(昭7) ニエール 鵠沼海岸で水死(昭10) 国道134号開通(〃)
③ 昭和20年以前 (1936～1945)	091～120	25	13	90	県営鵠沼プール竣工(昭12) 南海岸御神輿完成(〃) 鵠沼プール 藤沢市に管理委託(昭13) 藤沢 市制施行(昭15) 小田急江ノ島線 単線化(昭19～23)
④ 昭和30年以前 (1946～1955)	121～230	100	10	180	鵠洋小学校開校(昭21) キティー台風襲来 被害大(昭23) 横浜銀行鵠沼支店開設(昭25) 鵠栄会を含む市内7商店街連合会を結成(昭25) 鵠沼海岸海水浴場閉鎖 お別れの鵠栄会主催花火大会(昭28) 小田急江ノ島線南海岸駅設置を請願(昭29)
⑤ 昭和40年以前 (1956～1965)	231～300	64	24	220	鵠栄会「奥様ボナナス会(Rチップサービス)」始まる (昭33) 小田急シーサイドバレス開設(昭33) 鵠沼公民館開設(昭34) ヤマカストアー開店(昭38)
⑥ 昭和50年以前 (1966～1975)	301～360	57	26	251	八部公園開園(昭43)スズキ屋開店(〃) 鵠南小開校 (昭45)公民館での商店街ラジオ体操始まる(昭46～) 相鉄ローゼン開店(昭47) 中国上海市少年サッカークラブ来鵠 藤沢チームと対戦 (昭48) 上村鵠生園開園(〃)

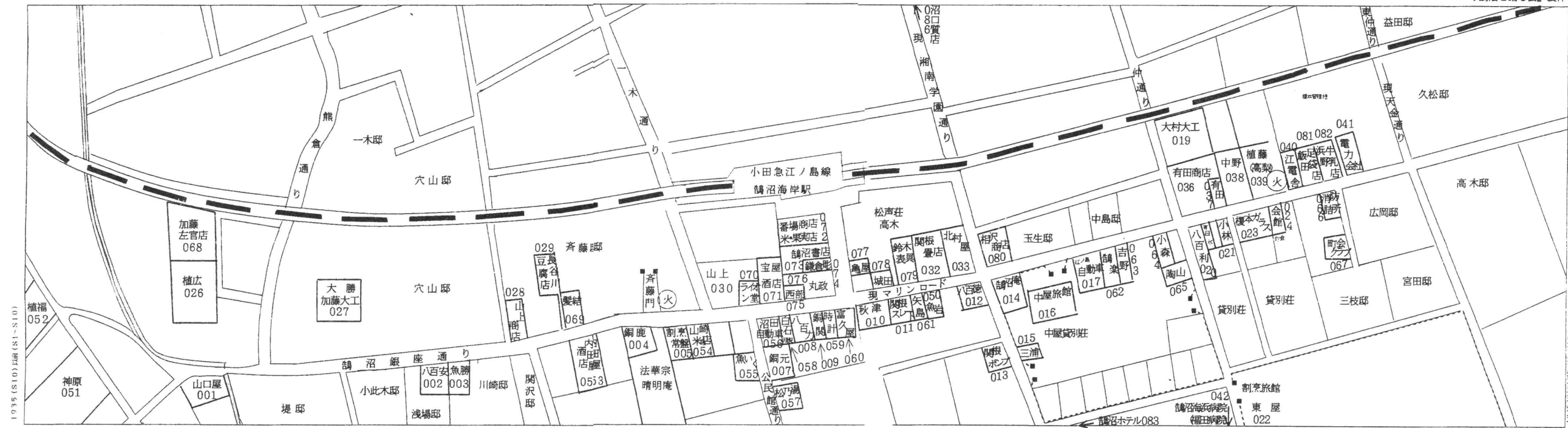
	商店コード	出店数	退店数	営業店数	鵜沼の時代状況
⑦ 昭和60年以前 (1976～1985)	361～440	76	49	278	
⑧ 平成12年以前 (1986～2000)	441～540	104	106	276	鵜沼海岸「サーフ90」メイン会場に(平3) モール化完成 マリンロードと改称(平4) 鵜沼海岸商店街振興組合と改称 法人化(〃) 鵜沼海岸にサーフビレッジ完成(平9)
累 計		512	236	276	

【店名地図と出店年代順リストについて】

- ◆この調査は鵜栄会(現鵜沼海岸商店街振興組合)の資料、藤沢市の各種文献、古老の証言、多くの店主、関係者の証言などに基づいている。
- ◆この調査は平成12(2000)年6月末日現在を調査時点としている。
- ◆昭和61(1986)年から調査時点までの15年間は、出店、退店のサイクルが早くなり、調査が不十分な結果となった。従ってこの期間の実際の出店、退店数はここに挙げた数字よりはるかに多いと思われる。
- ◆整理の都合上、各店舗には出店年代順に3桁の商店コードをつけた。同年代出店の場合は商店街の西側から若いコード番号にした。
- ◆読みやすさと位置関係を重視した結果、地図上の店舗の広さは必ずしも正確ではない。
- ◆テナント入店建物で記入余地のないものは、欄外に枠で囲んで示した。鵜沼百貨店(東京のれん街)とグリーンストアは別枠に記載した。
- ◆出店後、現在も創業者あるいはその関係者が継続している場合、店名に変わりのないものは店名の下に下線を引いた。店名が変わったり業種が変わったものには下段に「現」をつけ、現在の店名を記した。
- ◆同じ店が2カ所以上で事業をしている場合、及び同じ年代に移転した場合は、商店コードの後に「/1./2.」をつけた。
- ◆鵜沼の発展に寄与した医院、治療院、町会クラブ、造園業も商店街に含めた。

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵜沼銀座通り）昭和10年(1935)以前店名地図

『鵜沼を語る会』製作

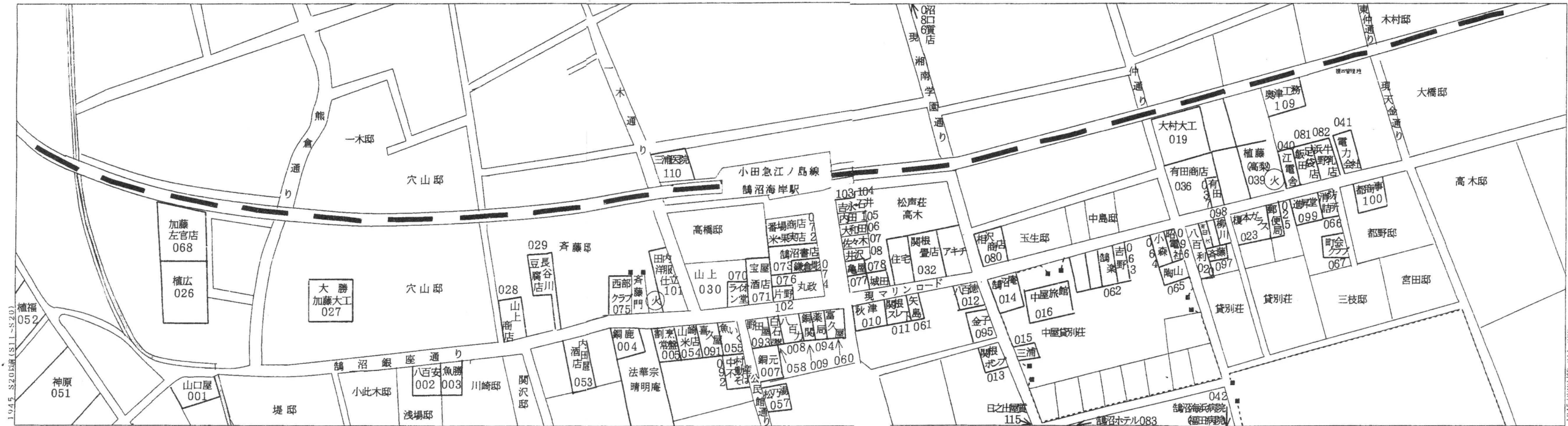


小田急線北側 東仲通り・現天金通り周辺

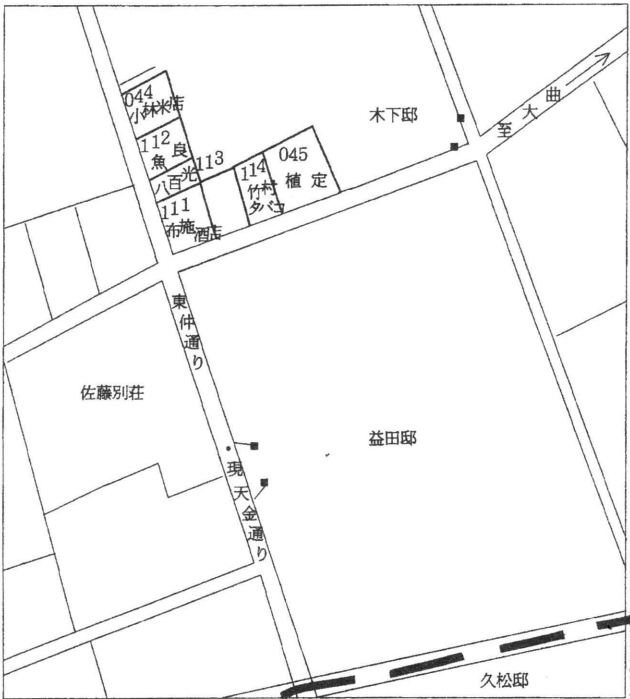


鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵜沼銀座通り）昭和20年（1945）以前店名地図

『鵜沼を語る会』製作

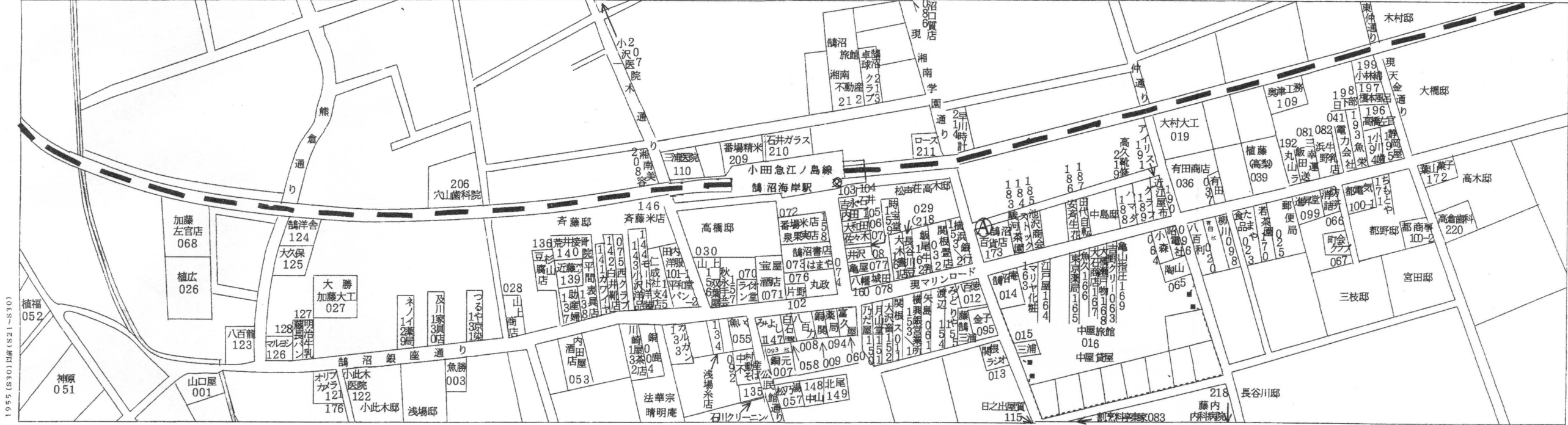


小田急線北側 東仲通り・現天金通り周辺

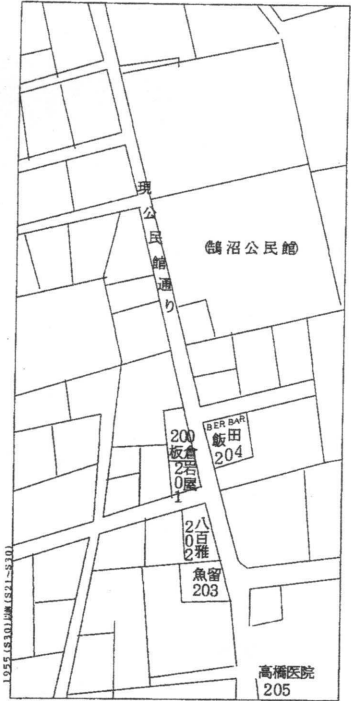


鵠沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵠沼銀座通り）昭和30年（1955）以前店名地図

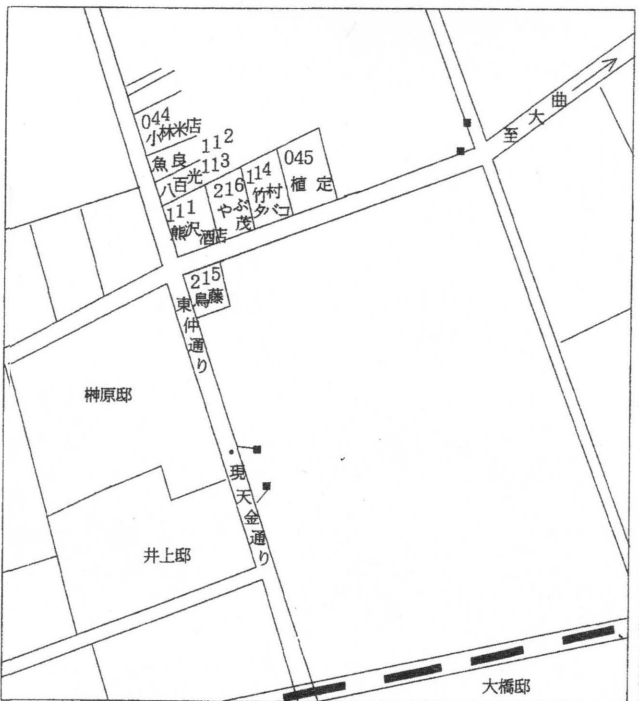
『鵠沼を語る会』製作



商店街南側 公民館通り

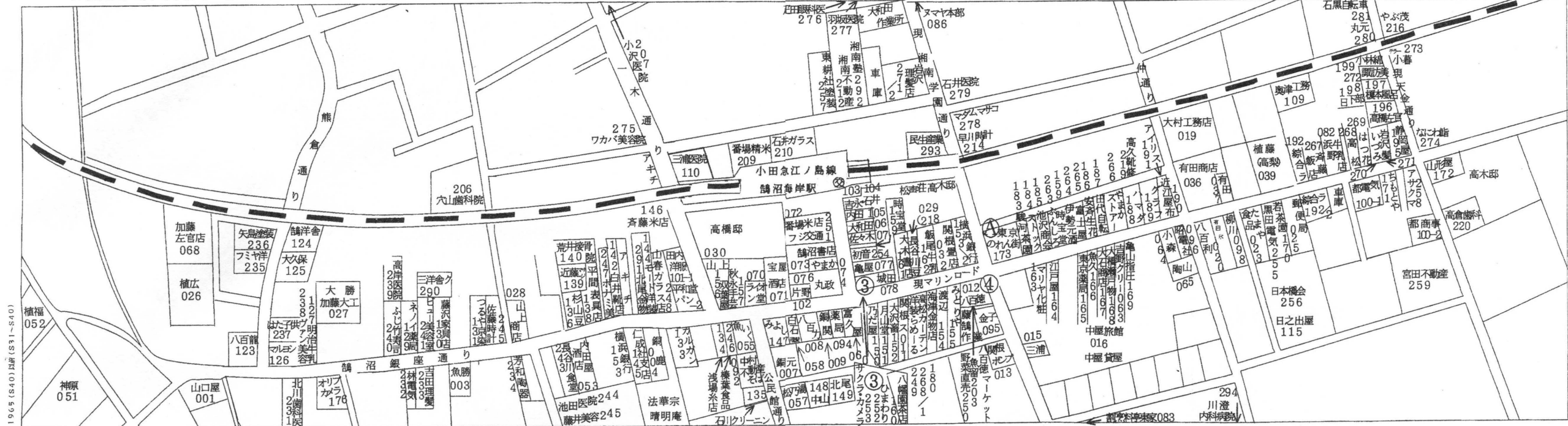


小田急線北側 東仲通り・現天金通り周辺



鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵜沼銀座通り）昭和40年（1965）以前店名地図

『鵜沼を語る会』製作



商店街南側 公民館通り

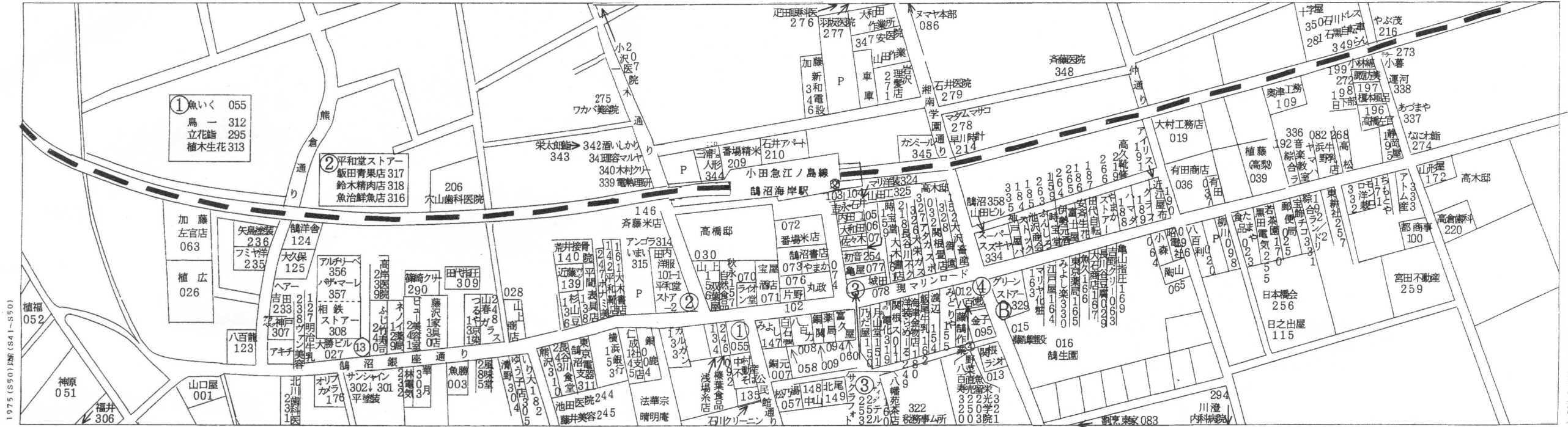


小田急線北側 東仲通り・現天金通り周辺

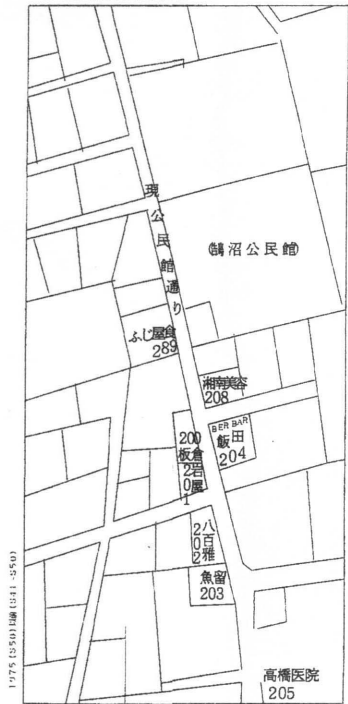


鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵜沼銀座通り）昭和50年（1975）以前店名地図

『鵜沼を語る会』製作



商店街南側 公民館通り



小田急線北側 東仲通り・現天金通り 周辺

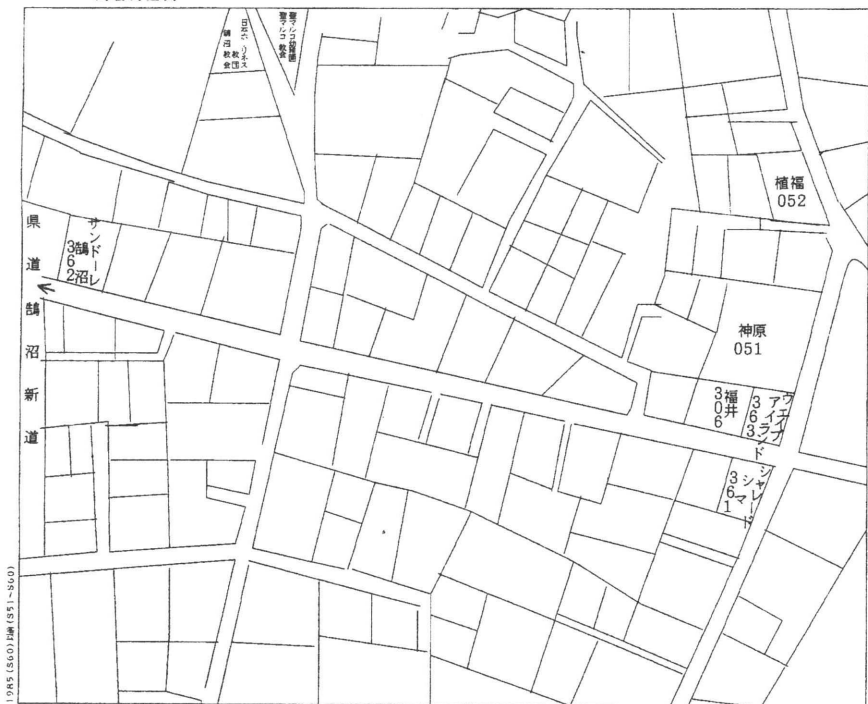


鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵜沼銀座通り）昭和60年（1985）以前店名地図

『鵜沼を語る会』製作



商店街西側



商店街南側 公民館通り



小田急線北側 東仲通り・現天金通り 周辺



鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵜沼銀座通り）平成12年（2000）以前店名地図

『鵜沼を語る会』製作



商店街西側



商店街南側 公民館通り



小田急線北側 東仲通り・現天金通り周辺



①

鵜沼百貨店（後 鵜 東京のれん街）配置図

◎昭和23年（1948）開 店 当時

174 千 草 和菓子 喫茶	175 ? 寿司店	176 オリブ カメラ フィルム	177 滝 本 精 肉 店	173 事 務 所 178 遊 戯 場 ゲーム 貸スケーター 161 大 木 書籍 文具 186 安 斎 生 花 店
179 カッピー フライ コロケ	181 藤 井 乾 物 店	163 マ リ ア 化粧品店		
184 海 津 金物 道具店	159 時 宝 堂 時計 宝石メガネ	181 い り 大 煎餅 菓子 飴		

鵜 沼 銀 座 通 り

◎昭和35年（1960）頃 中盤

174 千 草 和菓子 喫茶	295 立 花 寿司店	215 鳥 藤 鶏肉 卵	177 滝 本 精 肉 店	173 事 務 所
179 カッピー フライ コロケ	181 藤 井 乾 物 店	262 フランセ 洋菓子店		261 文 明 堂 カステラ
297 石 渡 レコード店		181 い り 大 煎餅 菓子 飴		260 和 幸 果 実 店

鵜 沼 銀 座 通 り

◎昭和40年（1965）頃 終盤

174 千 草 和菓子 喫茶		215 鳥 藤 鶏肉 卵	177 八 幡 精 肉 店	173 事 務 所
179 カッピー フライ コロケ	262 フランセ 洋菓子店			261 文 明 堂 カステラ
295 立 花 寿司店		181 い り 大 煎餅 菓子 飴		260 和 幸 果 実 店

鵜 沼 銀 座 通 り

⑧ グリーンストアー配置図

◎昭和42年(1967)開店当時
 <S56(1981)まで>

260 和幸 果実店 (S56撤退)		174 千草 和菓子店	
182 いり大 煎餅菓子パン (S55撤退)		215 鳥藤 鳥肉鶏卵	
203 魚留 鮮魚貝類		177 八幡精肉店 肉肉加工品 (惣菜店に転業)	

◎平成4年(1992)(S57~H4)以前

411 539 工藤青果店→大八青果 野菜果物 (H4撤退)		174 千草 和菓子店 (H3撤退)	
" "		540 ととろ 焼き鳥 お好み焼き	
203 魚留 鮮魚貝類		215 鳥藤 鳥肉鶏卵 (H3撤退)	
412 味富 惣菜店		203 魚留 鮮魚貝類	

◎平成10年(1988)(H4~H10)以前

539 大八青果店 野菜果物			511 興楽園			540 ととろ お好み焼き (H11撤退)		
" "			" "			540 ととろ 焼き鳥		
203 魚留 鮮魚貝類			412 味富 惣菜店 (H8撤退)			" "		

◎平成12年(2000)(H10~H12)以前

マリンロード		
510 キング オブ キング	511 興楽園	512 ポイント ワン
203 魚留 鮮魚 貝類		

〔鵜沼郵便局の歴史〕

年 月 日	事 項	所 在 地	局 長	代行
明治40年 1月 1日	設 置	鵜沼字下岡 6642番地 (海岸 2-8-26)	浅 場 金兵衛	● 鵜沼地区に電話開通 榛 葉 ? 柿 沢 ?
大正 8年12月16日	移 転	" 6660番地 (松が岡3-23-12)	"	
昭和 2年 7月21日	交 替	" "	広 岡 助五郎	
" ?年 ?月 ?日	"	" "	"	
" 7年 5月14日	"	" "	今 泉 頼 二	
" 11年 3月30日	移 転	鵜沼字下岡 6653番地 (海岸 2-7-3)	"	
" 27年 8月18日	交 替	" "	今 泉 倫 雄	
" 39年 8月 1日	住居表示変更	鵜沼海岸 2-7-3	"	
" 39年 8月 1日	局名変更	鵜沼郵便局→鵜沼海岸郵便局		
" 49年 7月17日	交 替	" "	大 矢 平 次	
" 55年 1月14日	移 転	鵜沼海岸 3-1-12	"	
" 60年 3月31日	交 替	" "	常 深 次 郎	
平成 8年 7月15日	交 替	" "	矢 崎 政 弘	

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵜沼銀座通り） 出店年代順リスト									
年	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代	備考	記
大正 五 十 年 以 前		大正15年（昭和元年、1926）以前出店							
	001	山口屋酒店	酒 食品 燃料たばこ	大正15年 (昭和元年)	堀 川	山口 昇	幸次郎		
	002	八 百 安		大正10年	堀 川	浅場安次郎	同左		
	003	魚 勝 現 石川ビル		大正10年	戸 塚	石川直義	嘉 助	東屋の板前をへて行商の後出店 ●現在 石川ビル経営	
	004	銅 鹿	板金工業	大正14年	片 瀬	山口義夫	鹿次郎		
	005	割烹常盤 割烹食堂 出前 (沼田料理店)		大正初期		沼田權次郎	同左	2R与四郎 初代は東屋の板前だったと言われている	
	006	安 場	人足口入屋 土木	大正初期		猪俣敏行	関根 安?		
	007	⑦銅 元	板金工業	大正9年	藤沢本町	鯨井義一	元一郎	●現在M&Kビル共同経営兼営	
	008	現 M&Kビル 現 鯨井板金工業							
	008	八 百 力	青果野菜	大正10年	原	榛葉敏行	力 蔵		
	009	銅 関	荒物雑貨	大正2年	秦 野	山口貴美	関 蔵	2R典義	
	010	秋 津	人力車 駄菓	大正?年					
	011	関根スレート 屋根スレート 現 メル鵜沼ビルI 建替		大正9年 昭和62年	鵜沼宿庭	関根康美子	精浩	2R 慎吾 ●現在メル鵜沼1, 2ビル経営 1. 鵜沼薬局 2. 御園、他	
	012	④八 百 徳 該親野郎から 現 八百徳ビル 青果		大正12年	堀 川	番場淳久	徳太郎	2R 延次郎 戦後八百徳マーケットを併設 ●現在八百徳ビル経営	
	013	関根ポンプ 井戸ポンプ 後にラヂオ修理店		大正9年	鵜沼宿庭	関根庚一	八五郎	昭和 15.6 年からラジオ店	
	014	鵜 沼 庵 (鵜沼饅頭)		大正7年	愛知常滑	中野一郎	同左	長男第二次大戦で戦死 一郎は中野荒物店の弥一郎の長男	
	015	鳶 三浦 鳶 土建 現 藤 鵜 建設 現 M&Kビル		大正9年	茨 城	三浦義博	義太郎	2R 幹 ●現在M&Kビル共同経営兼営 総合建設	
	016	中屋旅館 旅館 下宿 貸別荘 遊藝場貸部屋		大正初期	東京四谷	田中耕太郎	安	明治間に「対江(瀬)館」を引き継いだのが始め 現在 田安商事が駐車場として管理 また次男 元嗣の長男 上村安一郎により現在老人福祉の社会福祉法人上村厚生館になっている	
	017	江ノ島自動車 タクシー ハイヤー 勤怠		大正末期		青柳			
	018	明 月 庵 そば屋 有田商店の前身		大正2年	大 鋸	有田金八	同左	現八百利の所で営業、大正9年に向側 6663番地に移転、八百利になった	
	019	大 村 大 工 大村工務店の前身		大正9年	葉 山	小見 肇	泰 村吉	昭和4年有田商店の裏へ移転 平成11年11月まで営業	
	020	⑧八 百 利 青果野菜 現 八百利ビル		大正9年	土 棚	矢折誠一	昇 三	●現在 八百利ビル経営	
	021	小林理髪		大正初期	引 地	小林志ん	小林? (志んの夫)	昭和15年現 柳川理髪店に引き継がれた	
	022	東 屋 割烹旅館		明治25年		長谷川欣一	伊藤将行、長谷川栄	2R たか 関東大震災で倒壊後、大正13年復興、昭和13年に廃業、	
	023	榎本ガラス店 現 たまや文具店		明治38年	堀 川	榎本一男	松次郎	2R 武 明治末に先々代から6662番地一帯の所有者(東京)から貸与管理を 経営され集としていた 昭和27年から たまや食品店、昭和38年から、たまや文具店	
	024	町会会館（南部海岸）		大正末期				昭和11年より郵便局として使用された。	
	025	鵜沼郵便局 郵便 電信 電話		明治39年		局歴世、局 長名は別記 金子修三	明治39年6642で開局 大正8年6660に移転、昭和11年南蔵当番6653へ移転 39年8月1日 住居表示変更により局名を「鵜沼海岸郵便局」に変更、昭和55年1月14日 現在地(鵜沼海岸3-1-12)		
	026	植 広 植木屋		大正14年	鎌 倉	広吉			
	027	大 勝 加藤大工 現 大勝共同ビル 数に付本店も兼業		大正6年	鵜沼中東	加藤徳次	徳太郎	2R 正吉 6320~22番地一帯を所有、貸与管理も行ってた ●現在 大勝ビル経営 そうてつローゼ、マンション	
	028	山上商店 たばこ		大正7年	鵜沼宿庭	山上艶子	元三郎		
	029	長谷川豆腐店		大正10年	須 賀	長谷川大式	助次郎 2R 昌彦 昭和25年 2-3-10に移転、跡を長谷川つとむ 杉山廣義 が杉山豆腐店を開設 昭和41年 当該地 現店舗を2-6-4 に開店		
	030	山上 現 ビア山上ビル		大正7年	鵜沼宿庭	山上英男	龜太郎	2R 孝司 代々貸店舗業 ●現在 山上ビル経営	
	031	斎藤百貨店		大正8年	苅 田	斎藤進	同左	昭和4年宝屋商店が引き継ぐ	
	032	⑥関根畳店 現 関根ビル		大正9年	鵜沼宿庭	関根謙至	敬悦	●現在 関根ビル経営兼業	
	033	北村屋 牛豚鶏肉卵		大正13年					
	034	山口屋 米 調味料 燃料 荒物雑貨		大正初期				昭和初期に辻堂の相沢商店が支店として引き継ぐ	
	035	秋 葉 たばこ		大正初期					

鵜沼海岸商店街（現マリノロード、旧鵜沼銀座とおり） 出店年代順リスト

年	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代	備考
大正15年（昭和元年、1926）以前出店 続								
大正 以前	036	有田商店	精肉 酒 調味料 食品	大正2年	大 鋸	有田裕一	良助（斎職） 2代 金八（不動産、そば屋、食堂） 3代 良夫（精肉、酒、食品、氷） 駐 煙草も引継ぐ	
	037	有田たばこ店		大正10年	大 鋸	有田初子	ちよ	
	038	中野荒物雜貨店		大正末期	愛知常滑	中野弥一郎	同左	鵜沼庵中野一郎の父親
	039	植 藤 造園 現 UETOビル		大正7年	江ノ島	高梨キヨ	藤太郎	●現在 植藤ビル経営 菊本別荘の管理人から創業
	040	江電舎	電設工事	大正8年	片 瀬	永野	同左	
	041	電力会社 電灯敷設管理 派出所 契約、料金徴収		大正初期	腰 越	駐在 細井	香川	明治42年の江ノ島電氣鐵道の電力供給に始まり江ノ島の合併過程と戦時の電力統制、戦後と江ノ島電氣鐵道・横浜電氣・東京電灯・関東配電・東京電力 となり昭和26年度止まで後に藤内科医院が引き継ぐ、昭和34年より川澄医院
	042	鵜沼海浜病院（福田病院）		明治42年	埼玉県杜	福田良平	同左	
	043	高木建具店		大正初期		高木程三	同左	
	044	小林養鶏場 現 小林個人タクシー		大正初期		小林勝也	清次	昭和10、1年頃 貸店舗業（4軒）になり、1942（昭和17）食料管理法による米穀類統制販売所に店舗を貸したのが始めて昭和45年まで米穀店
	045	植 定 造園		明治末期		渡辺定吉	同左	木下別荘の別荘管理を兼業
	046	山下養鶏場		大正初期		山下		
	047	駐在所（藤沢警察署）		大正初期		浅野清五郎 巡査		震災後か昭和初期に中岡7365（現松が岡 2-5-9）海岸通り井上邸内に移転、巡査 波多腰武雄
	048	八百屋（屋号不詳）		大正初期 ?				
	049	床 春 理髪店		大正10年 ?				
	050	魚 岩 魚屋		大正10年 ?				
	051	神 原 運搬店 馬 力 現 神原工務店		昭和初期	堀 川	神原 勇	彦四郎 2代 平五郎 現在 神原工務店	
昭和10年（1935）以前〔S1～10〕出店								
昭和 以前 (S・1 とS10)	052	植 福 植木屋		昭和初期	堀 川	沼上幹夫	福蔵 2代 昇 現在 植福造園	
	053	内 田 屋酒店		昭和初期		内田	同左	第二次大戦で戦死 2代田嶋、鈴木氏及び後見人、川口氏で昭和54まで経営、熊沢屋に譲渡
	054	山 崎 米店 乾物店		昭和初期	堀 川	山崎与之助	同左	第二次大戦で戦死 米統制、配給制で休業 戦後 乾物商に
	055	① 魚いく 魚屋 現 魚いくビル コロラド・コーヒー		昭和10年	腰 越	杉山幾次郎	同左	2代 茂 ●現在ビル経営兼コロラド経営
	056	沼田自動車 ハイヤー		昭和7、8年		沼田与四郎	同左	父は沼田料理店主 長男第二次大戦で戦死
	057	松乃湯 銭湯 現 M&Kビル		昭和6年	茨 城	三浦義太郎	オナは中屋の 田中 安 の親 かね で経営 義太郎、2代 幹の 細君二人が始め、三浦一家で経営していた。譲渡は現M&Kビル	
	058	白石 理髪店		昭和7、8年 ?		白石	同左	
	059	時 計 店		昭和4年 ?		?		
	060	③ 富 久 屋 酒、鍋、焼 現在 貸店舗経営兼業		昭和4年	高座渋谷	小川康男	武夫	現在、中村屋を併営 パン、菓子
	061	矢島 釣具店 釣具、餌		昭和5、6年 ?		矢島		
	062	鵜 楽 食堂		昭和10年	京 都	斎藤梅子	斎藤幾松 甥 長生 輸送船の船主として徴用され昭和18年 ユーゴーで戦死 19代 S23年閉店	
	063	吉野クリーニング		昭和初期		吉野哲郎	与一	昭和60年で善行の方に移転
	064	小森ラヂオ店 ラヂオ修理		昭和6年	福 井	小森広之	同左	2代一彦 昭和56年に塗装業に転業 平成4年移転 現在 本鵜沼で塗装業を操業
	065	陶山左官店 スナック		昭和4年	川崎宮前	陶山與四郎	同左	2代 雅淳（現）27歳-6にて司法書士事務所開業
	066	消防詰所		昭和5、6年				後に消防第五分団の消防車の車庫になり、昭和35年鵜沼公民館完成により2丁目10-3に移転するまで使用。

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧鵜沼銀座通り） 出店年代順リスト						
昭和	コード	店名 商い	出店年 出身	店主名 初代	備考	
昭和十一年以前（1935）以前		昭和10年（1935）以前【S1～10】 出店 続				
	067	南海岸町会クラブ 集会所	昭和5.6年			昭和35年公民館建設のため売却まで使用
	068	加藤左官店	昭和7年	南足柄	加藤和久	高雄 2R 久直
	069	髪 結	昭和5.6年		おつねちゃん	
	070	ライオン堂 薬局	昭和8年	荻 田	斎藤正己	功一
	071	宝 屋 酒、調味料 食品、燃料	昭和4年	海老名	鍵渡元広	宗次 斎藤百貨店を引き継いで開店、現夫人は斎藤家の人
	072	⑤番場 商店 米、果実 シーサイドタウン鵜沼 現 番場米店	昭和8年 昭和50年	堀 川	番場定八 建替	同左 果実店閉店後 フジ交通(タクシー)を共同創業 2代孝 ●現在 番場ビル(ツサバカシビル)経営兼業
	073	鵜 沼 書店	昭和7年	東京江東	福地美沙子	誠一
	074	鎌倉彫り 現 ガーゼ・サーフショップ	昭和7年 昭和62年	山 梨 腰 越	古屋	同左 2R 正次 聊23年 はまや食品店、ヤマカストアー 3R 小百合 分店、古屋セトモノ店を経て、現業
	075	西海岸町会クラブ 集会所	昭和7.8年			昭和12年頃 3-1-13 に移転、公民館建設資金に 昭和35年売却
	076	⑨丸 政 旅館、食堂 現 丸政ビル	昭和4年	高座渋谷	田辺正行	政吉 2R五郎 ●現在 丸政ビル経営兼業
	077	亀 屋 和菓子、パン	昭和7年	茅ヶ崎	石井文雄	茂春
	078	城田自転車店	昭和8年	茅ヶ崎 赤羽	城田惣一	吾輔
	079	鈴木表具店 襖、障子 壁紙 表装	昭和4年	鎌 倉	鈴木 勇	同左
	080	相沢商店 荒物雑貨 燃料 (支店)不動産幹旋 貸家	昭和初期	辻 堂	相沢五郎	同左 山口屋を引き継ぐ 店の後ろに数軒の貸家を 持っていた。
	081	飯 田 足袋、作業服縫製 現 三幸運送 運送業	昭和5年		飯田昭精	定義 聊28年より 三幸運送 39年 辻堂に移転 現本社 鵜沼海岸 5-3-15
	082	浜野牛乳店 牛乳、飲料 アイスクリーム	昭和5年	片 瀬	浜野勇三	幸三郎
	083	鵜沼ホテル 旅館 後 割烹料理亭 東家	昭和8年	東 京 日本橋	右近長太郎	伊東縫子 3R伊東将治 聊22.3年頃、プロ野球選手日ドラゴンの東京での試合時 の宿であった 昭和25年 飯沼「東家」になった
084	佐藤医院	昭和9年頃	東 京	佐藤		
085	タバコ店	昭和10年	東 京	志保	戦後 引っ越し後を竹村さんが引き継ぐ	
086	沼口 質店 現 ヌマヤ本部	昭和初期		沼口惣五郎		
087						
088						
089						
090						
昭和二十一年以前（S11～S20）		昭和20年（1945）以前【S11～S20】 出店				
	091	喜 久 屋 食料品 輸入品販売	昭和12.13?	千 葉	?	
	092	中村不動産 不動産仲介 中村そば屋 蕎麦、丼物	昭和18年 〃20年	千 葉	中村軍司 中村トク	
	093	野田屋 そば、食堂 肉屋 氷、毎日新聞販売店	昭和13年	千葉野田	桜井竹三郎	
	094	鵜沼 薬局 現 鵜沼薬局チェーン	昭和11年	東京麹町	市谷 仁	俊
	095	金子美容院 美容一式 現(例)アルファネコ美容院	昭和17年	山 形	金子英之	トキ子
	096	鵜沼 昭電社 電設工事業	昭和16年	藤沢 台	高崎 晃	与助 初代は江電舎の社員から独立創業
	097	斎藤 靴店 靴修理業	昭和10年代			
	098	柳川 理髪店 理容一式	昭和15年	藤 沢	柳川弘之	喜作
	099	新昇堂 パン店	昭和10年代	鵜、沼 藤が谷	大谷	
100	都 商事 エンビ管販売 後 都電気店	昭和10年代				

鶴沼海岸商店街（現マリンロード、旧銀座通り） 出店年代順リスト									
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代	備考	出店統
昭和20年以前（S11）		昭和20年（1945）以前 [S11～S20]							出店統
	101	② 田内 洋服仕立店		昭和17年	鶴 沼	田内精一郎		昭和21年に従姉妹の田内フミが平和堂パン店を創業	
	102	片野玩具店		昭和11年	江ノ島	片野正勝	春吉	昭和40年平和堂ストアー開設	
		現在貸店舗							
	103	吉永不動産		昭和10年代					
	104	⑩ 石井牛乳店		昭和10年代				●現在 石井ビル経営（モンタボーパン入店）	
		現 石井ビル経営							
	105	内田不動産	不動産仲介	昭和15年	東 京	内田英一	悦三		
	106	大和田工務店	上下水道 工事全般	昭和15年	茨 城	大和田 進	武 2代 原田 操	現在 鶴沼松が岡 4-20-8 で営業	
	107	佐々木商店	雑貨店	昭和15年	東 京	佐々木初男	清作		
		現 ささき	海浜雑貨店						
	108	伊沢下駄店	履物店	昭和15年	東 京	伊沢三郎			
		後 遊具店							
	109	奥津工務店	建築一式請負	昭和11年	秦 野	奥津一男	武男		
	110	三浦内科医院		昭和13年	東 京	三浦雅二			
	111	布施酒店	酒、食品	昭和20年	新 潟	布施美智子	留八	昭和14年藤沢で酒店開店、当地には昭和20年に 出店	
		現 熊沢屋酒店（マート）							
	112	魚 良	鮮魚店	昭和15年		石井あきこ	良一		
	113	八 百 光	青果店	昭和15年	新 潟	佐藤光栄			
	114	竹村たばこ店		昭和20年		竹村信胤	雅道		
115	日之出屋	質店	昭和21年頃	東 京	右近一夫	辰太郎			
116									
117									
118									
119									
120									
昭和30年以前（S21）		昭和30年（1955）以前 [S21～S30]							出店
	121	山田 商店		昭和23年		山田			
	176	オリブ・カメラ	写真	昭和23年		宇佐川		㊤ 鶴沼百貨店内出店が始め。	
	122	小此木耳鼻咽喉科医院		昭和23年	東 京	小此木修三			
	123	八 百 龍	青果店	昭和28年	静 岡	中川隆介			
		現 中川食品							
	124	鶴 洋 舎	クリーニング	昭和26年	北海道	関野末治		昭和60年に移転、営業所を 3-2-20 に開設	
	125	大久保精肉店	肉屋	昭和28年	下土棚	大久保貞夫	勇		
	126	マルヨシ洋品店		昭和20年代					
	127	明治牛乳販売店		昭和26年		関口 創業	2代 坪井		
	128	藤長パン販売店		昭和20年代					
	129	ネノイ薬局	漢方薬	昭和30年	東 京	根井養智			
	130	及川家具店		昭和20年代					
		後 藤沢家具店							
131	つるや京染店		昭和27年	亀井野	中村憲正	荀			
132	川崎屋茶店		昭和20年代						
133	カルガン	洋菓子店	昭和24年	滋賀県 近江八幡	畑 桂一	辰造	21年中国から引揚げる、カルガンは地名、戦時中 当地で近江屋製菓工場をもち、軍のご用商人		
134	浅場糸店	糸、針、手芸 用品	昭和20年	横 浜	浅場基司				
	現 あさば糸店								

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧銀座通り） 出店年代順リスト							
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名 初代 備考	
昭和30年以前		昭和30年（1955）以前 [S21～S30] 出店 続					
	135	石川クリーニング店		昭和28年	戸 塚	石川和夫	
	136	杉山豆腐店		昭和24年	須 賀	杉山廣義 長谷川助次郎が大正10年に創業、長女まつの夫杉山廣義が跡を継いだ、長谷川は別店舗に移る	
	137	平間助産婦院		昭和27年	栃 木	平間	
	138	平間表具店	表具仕立て、張り替	昭和27年	栃 木	平間光裕 光治	
	139	近藤マッサージ		昭和20年代			
	140	荒井接骨院		昭和20年代			
	141	カワイヤ洋品店		昭和20年代			
	142	① 白井靴店（平和堂靴店） 現 ベルク湘南ビル、アコレード		昭和30年 平成7年	東 京	白井五郎 白井伊智朗	●現在 ビル経営
	143	小沢洋品店		昭和20年代			
	144	モード洋装店		昭和20年代			
	145	仁成社支店 葬儀社の主張所 （藤沢遊行通り）		昭和20年代			
	101-2	② 平和堂パン（田内パン）店 現 平和堂ストア一経営		昭和21年	鵜 沼	田内フミ	
	146	斎藤米店	米、タバコ	昭和24年	鵜 沼	斎藤俊夫	代々一帯の地主
	147	みよし洋品店	洋品雑貨	昭和30年	片 瀬	田中芳男	
	148	中 山 印刷		昭和27年	片 瀬	中山留吉	
	149	北尾不動産		昭和20年代			
	150	乃だ屋履物店 現 のだや 茶店、クリーニング取次		昭和20年	横 浜	小沢宏之	定雄 履物店で創業、昭和59年向かいの八幡苑茶店を引き継いで転業
	151	アルテ月山堂	表具店	昭和23年	辻 堂	高橋正浩	
	152	大沢畜産	精肉店	昭和20年	厚 木	大沢 清	秀男 現店は横浜銀行跡2-3-5 初代秀男さんは清さんの義兄 関根スレート店の一角で営業を開始
	153-1	横浜興信銀行営業所 （期間年中 支店落成により移転）		昭和22年			
	154	渡辺商店	文具、雑貨	昭和21年	横 浜	渡辺てる	
	155	みどりや化粧品店	ハリウッド化粧品 特約店	昭和22年	藤 沢	山下省子	目谷千太郎
	156	双葉屋米店	精米店、製麺販売	昭和24年	堀 川	板橋 守	由蔵 2F 福子 現店は3-4-3
	157	秋永 手芸品 現 湘南自然食品センター	米、食品	昭和27年	九 州	藤巻宏子	秋永サヤカ 業種替 秋永自然食品を経て 現業 現店舗 3-1-8
	158	泉屋果実店		昭和25年	堀 川	番場定八	番場商店の果実部門を別店舗開店
	159	時 宝 堂	時計、メガネ、宝石	昭和23年	東 京	小坪利男	一 鵜沼百貨店出店が創業 現店舗は2-2-18
	160	④ 鵜沼百テナント 八幡苑茶店		昭和30年			
	161	③ 富久屋テナント 大木書店		昭和23年	藤 沢	大木	鵜沼百貨店内に書籍文具店を出店が創業 3-1-14に移転後、平成6年に藤沢へ 昭和53年頃 向かい側 2-5-6に移転
	162	④ 鵜沼百テナント 飯尾牛乳店		昭和20年代			
	153-2	横浜興信銀行鵜沼支店 現 横浜銀行		昭和23年	横 浜		現店舗 3-5-2 4店舗目
	163	マリア化粧品店	資生堂化粧品特約店	昭和23年	横 浜	渡辺富代	正二 鵜沼百貨店テナントから創業
	164	④ 鵜沼百テナント 江 戸 屋	和風珍味食品店	昭和24年	横 浜	岡本周造	重雄
	165	東 京 薬局	薬局	昭和20年代			
	166	魚 久	鮮魚店	昭和23年 平成8年	茅ヶ崎 赤羽根	杉山鶴雄	久作 初代が有田の外交店員の後、魚の行商を経て江ノ島自動車跡に出店
	167	大石商店	家庭用品 雑貨	昭和26年	辻 堂	大石政雄	貢 2F 富美子
			現 リビングショップおおいし				

鶴沼海岸商店街（現マリーノロード、旧銀座通り）				出店年代順リスト				
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代	備考
		昭和30年（1955）以前 [S21～S30]					出店 統	
昭和	168	大橋瀬戸物店		昭和23年				鶴桑 引越後、縁者の方が経営と聞く
	169	亀山指圧療院		昭和20年代				
	170	若 茶 園		昭和20年代				たまや 榎本のテナント
和	171	ちもとや 和菓子店		昭和30年	鎌 倉	大小田初子		
	172	葉山菓子店 駄菓子、飲料		昭和30年	山 形	森 富子		
	173	現 山 形 屋		昭和23年		伊藤		
十	174	① 鶴沼百貨店 テナントマーケット（東京のれん街と昭和40年より称した）		昭和23年		高橋		
	175	① 鶴沼百 ② グリーン・テナント		昭和23年				
	176	？ 寿司		昭和23年				
年	177	① 鶴沼百テナント		昭和23年		宇佐川		昭和35年頃 3-3-8 に移転
	178	オリブ・カメラ カメラ、フィルム		昭和23年		滝本		
	179	① 鶴沼百テナント DEP 現		昭和23年				
以	180	滝 本 精肉店		昭和23年		細谷		
	181	① 鶴沼百テナント		昭和23年				
	182	遊 戯 場 お菓子の出るパチンコ等		昭和23年				
前	183	① 鶴沼百テナント 貸しスケーター		昭和23年				
	184	カッビー カツ・コロッケ等		昭和23年				
	185	① 鶴沼百テナント フライ物惣菜		昭和23年				
(S	186	海 津 金物店 金物、道具、工具		昭和23年	新 潟	海津千鶴子	嘉市 2R 平次	鶴沼百貨店出店が始め
	187	① 鶴沼百テナント 現店舗出店		昭和34年				現店舗 2-5-5
	188	藤井乾物		昭和23年		藤井		
21	189	① 鶴沼百テナント		昭和23年				
	190	い り 大 煎餅、菓子店		昭和23年	藤 沢	大塚政子	秀松 2R 実	鶴沼百貨店に「いり大」で出店、グリーンストアを経て現3-4-7 で転業
	191	現 志野 串政（串揚げ、焼き鳥） ① 鶴沼百 ② グリーン・テナント		昭和20年代				
S	192	駿 河 茶園		昭和20年代				
	193	ストック商会 靴販売（大島靴店）		昭和22年	東 京	大島 充		
	194	池 沢 商会 家電製品、販売取り付		昭和29年	神 戸	池沢彰治		
30	195	安斎生花店 生花、鉢物、園芸用品		昭和23年	西 富	安斎博彦	彦次	鶴沼百貨店で創業、昭和26年現在地に
	196	① 鶴沼百テナント		昭和26年	堀 川	田代忠夫	忠次	戦前から堀川の辻で営業、昭和26年現地に店出
	197	田代自転車 自転車販売、修理		昭和26年	静 岡	浜田たか		
)	198	ハマダ婦人服店 婦人服、洋装品		昭和26年	横 浜	稲垣義丸		
	199	現 レディースモード ハマダ		昭和27年	藤 沢	梅原 実		
	200	グラフ商会 カメラ、写真材料		昭和29年				
	201	現 グラフ D・P・E		昭和27年				
	202	近江屋布団店 寝具、肌着		昭和29年				
	203	アイリス美容院		昭和27年				
	204	丸山ランドリー クリーニング		昭和27年		三上啓二	丸山 2R 西山 3R 西山京子	40年頃から向かい側に作業場
	205	現 総合ランドリー		昭和24年		石黒栄作		
	206	魚 栄 鮮魚店		昭和23年				
	207	小川歯科医院		昭和21年	静 岡	宮地 勝	万一 2R 正実	
	208	静岡屋 青果店		昭和27年	小田原	高橋七之助		
	209	榎 本 風呂店 風呂、空調		昭和25年	片 瀬	榎本光洋	浩	
	210	現 榎 本 商会 住宅設備機器		昭和25年	兵 庫	日下部巨男		
	211	日下部工務店 建築一式請負		昭和20年代				
	212	小 林 綿店		昭和30年	兵 庫	板倉アイ		
	213	いたくら雑器店 日用雑貨		昭和29年	宮 崎	岩切矢素子		
	214	岩 屋 タバコ		昭和23年	茅ヶ崎	小室正昭	千代吉	
	215	ヤマト宅急便取扱い						
	216	八 百 雅 青果店						
	217	現 こむろストア 総合食品販売						

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧銀座通り） 出店年代順リスト							
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代 備考
昭和 三 十 年 以 前 (S 21 ～ S 30)	昭和30年（1955）以前 [S21～S30] 出店 統						
	203	魚 留 鮮魚店 ④、⑤ グリーン・テナント		昭和24年	大 磯	二板木 哲	留吉 3-12-4で創業、昭和32年八百徳マーケット 出店、42年グリンストアに出店現在
	204	BAR BER 飯田 理容店		昭和23年	長 後	飯田 豊	稔
	205	高橋耳鼻咽喉科医院		昭和21年	横 浜	高橋 良	研三（酒井）
	206	穴山歯科医院		昭和22年	山 梨	穴山洋一	清作 2R 嘉重
	207	小沢内科小児科医院		昭和21年	東 京	中村 博	小沢祐保
	208	湘 南 美容院		昭和25年	福 島	佐賀美重子	昭和31年 2-10-31 に移転
	209	番場米店精米所		昭和20年代 48年		番場定八	自宅として使用、店舗改築時の昭和48 年頃精米所開設
	210	石 井 ガラス店 現 石井アパート		昭和20年 代			
	211	ローズ喫茶店		昭和20年 代			
	212	鵜 沼 旅館 (湘南不動産)		昭和22年		伊藤	鵜沼百貨店・東京のれん街のオーナーも同一 人物。
	213	湘 南 卓球クラブ		昭和20年 代			
	214	早川時計店		昭和20年 代			
	215	鳥 藤 ④ 鵜沼百 ⑤ グリーン・テナント		昭和28年 頃		植田	昭和35年頃鵜沼百貨店内、オリブカメラ 後に出店 42年にグリンストアに出店
	216	や ぶ 茂 そば処、飲食業		昭和30年	秋 田	茂木文次郎	熊沢屋隣3-21-20 創業、昭和37年に 現在地 3-27-16 に移転
	217	藤内内科医院		昭和21年		藤内	鵜沼海浜病院（福田病院）を引き継ぐ
	218	はせがわ 不動産 クリーニング はせがわ クリーニング●ビル経営兼業		昭和25年	鵜 沼	長谷川福子	昌澄 長谷川福子が母体だが政男が働き、昌澄はサラリーマンの 後、不動産業、妻がクリーニング創業
	219	高 久 靴店 靴修理業		昭和20年 代		高橋 清	
	220	高倉歯科医院		昭和20年 代		高倉	
	221			昭和 年			
	222						
	223						
	224						
	225						
	226						
	227						
	228						
	229						
	230						
昭和 四 十 年 以 前	昭和40年（1965）以前 [S31～S40] 出店						
	231	北川歯科医院		昭和36年	静 岡	北川礼太郎	
	232	林 電気 家電製品販売、修理		昭和30年 代			
	233	吉 田 理髪店 理容 現 ヘアーサロン・よしだ		昭和32年	東 京	吉田祐善	昭和49年に現在地 3-2-21 に移転
	234	芳和苑陶器		昭和30年 代			
	235	フミヤ洋装店		昭和30年 代			
	236	矢島 塗装店		昭和30年 代			

鵠沼海岸商店街（現マリノロード、旧銀座通り） 出店年代順リスト						
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名 初代 備考
昭和40年以前 (S31～S40)		昭和40年（1965）以前【S31～S40】 出店 統				
	237	はた 子供服店		昭和38年		
	238	ヴァン 美容室		昭和30年代		
	239	高 岸 医院		昭和30年代		
	240	ふじ竹 寿司		昭和37年	東 京	大林輝雄
	241	ビュー 美容院		昭和35年	東 京	中村みつ子
	242	佐 藤 時計店		昭和30年代		
	243	長谷川 食堂	中華料理	昭和30年代		
	244	池 田 医院	内科・小児科	昭和31年		
	245	藤 井 美容院		昭和31年		藤井純子
	246	はしば食料品店		昭和32年	原	榛葉サト 君彦
	247	ボナミ 美容院		昭和30年代		
	248	山 春 ガラス店	ガラス修理 刃物研ぎ	昭和38年	伊豆土肥	山田春夫 昭和50年に現店舗3-2-12に移転 文化的古い日本家屋の模型製作
	249	洋装らめーる	婦人服仕立て、修理	昭和23年		
	250	野菜 直売所 ④八百徳ビルテナント		昭和32年	善 行	神崎 実
	251	フジ 交通	タクシー	昭和33年	堀 川	番場定八 (共同経営)
	252	ひまわり 洋装ブテック ③富久屋テナント		昭和32年	鵠 沼	塩入義久
	253	サクラ・カメラ ③富久屋テナント	カメラ、アルバム フィルム、DPE	昭和32年	東 京	真田正一
	254	初 音 すし 寿司店		昭和30年代		伊沢のテナント
	255	黒 田 電気	家電製品販売、修理	昭和40年	鵠 沼	黒田泰司
	256	日本橋会	古物商（呉服・和装）	昭和39年	東 京	右近フミ
	257	東 耕 社	塗装店	昭和35年	鎌 倉	下山修作 鵠沼海岸駅北側 松が岡 4-16-24に出 店後 現在店に
	258	アサクマ小鳥店	小鳥、餌 販売	昭和36年	藤 沢	
	259	宮 田 不動産	斡旋、仲介	昭和33年	鵠 沼	宮田正之
	260	和 幸 果実店 ① 鵠沼百テナント ② グリーンテナント		昭和30年代		
	261	文 明 堂	カステラ、菓子	昭和30年代	東 京	
	262	① 鵠沼百テナント フランセ洋菓子店		昭和30年代		
	263	① 鵠沼百テナント ぶんしろう洋菓子店		昭和32年		
	264	伊 勢 元 酒店		昭和32年	愛 知	渡辺 俐
	265	インテリア富士屋	内装業	昭和36年	福 島	鈴木淳仁 謙一
	266	やまかストアー 鵠沼店	スーパーマーケット	昭和38年	腰 越	古屋 清
	267	斎 藤 飯店	食堂 ラーメン	昭和39年		
	268	高松インテリア 現 高 松	室内装飾業 インテリア小物販売	昭和31年	新 橋	高松庸子 昌二郎 2階 信次 2-5-3 旧関根スレート店 0-1で高松カーテンの名で創業 39 年現店開店
	269	はつ花そば店		昭和35年 ？	箱 根	藤沢 駿河銀行地下の食堂街に支店出店 後に本店は閉鎖
	270	いづみ貸し本店		昭和35年 ？		
	271	岩 沢 理髪店 現 いわさわ理容室		昭和28年	東 京	岩沢繁一 勇之助 2階 シウ 天金通り東海岸 現 松 が岡3-7-5 で創業 35年当地、40年現在店舗

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧銀座通り）				出店年代順リスト				
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代	備考
昭和 和 四 十 年 以 前 （ S ） （ S ）		昭和40年（1965）以前 [S31～S40]					出店 続	
	272	諏訪 美容院		昭和30年代				
	273	テーラー小暮 紳士服仕立店	昭和40年	群 馬	小暮幸男	仕立店で創業、平成1年に幸男の姉トミ子が藤沢で経営の割烹こぐれを現在地に開店		
	274	⑫ なにわ 寿司 飲食店	平成1年	東 京	小暮トミ子	当初なにわ寿司を創業、60年ふじ乃寿司が営業を引継ぎ、平成10年ビル経営		
	275	⑩ シーフラワーコープ（計11店舗）2<雑10>	昭和40年	東 京	岩村	当所で創業、昭和41年に現在店海岸2-1-14 に移転開業		
	276	ワカバ美容院 美容、きもの着付け	昭和36年	長 崎	山根ミサ子			
	276	現 サロンド・わかば						
	276	疋 田 眼科医院	昭和32年	横 浜	疋田晶子			
	277	羽坂耳鼻咽喉科、皮膚科医院	昭和37年	東 京	館野みゆき	羽坂美登利 当初松が岡 4-15-20で開院、平成元年に現在所 4-16-15に移転開院		
	278	マダム・マサコ美容院 美容 着付	昭和32年	三 重	小野マサ子			
	279	石井産婦人科医院	昭和31年	鎌 倉	石井 涼			
	279	後 石井クリニック						
	280	丸 元 産業 不動産	昭和36年					
	281	石黒自転車店	昭和36年	東 京	石黒章太			
	281	現 イシグロ・モータース・自転車商会						
	282	大牧電気商会	昭和38年	福 井	大牧貞男	当初松が岡 2-21-21 天金通りで創業、平成10年現店舗開店		
	283	吉田ブリキ店	昭和35年頃	藤 沢	吉田 武			
	284	村 田 食堂 ラーメン	昭和38年					
	285	風味堂煎餅店 煎餅、おかき	昭和34年	相模原	井上正夫	昭和50年 鵜沼海岸 3-4-5 現店舗開店		
	285	現 鵜沼 風味堂						
	286	名 糖 牛乳 牛乳宅配	昭和35年		柳沢			
	287	内 山 理髪店	昭和35年		内山			
	288	あさり 寿司	昭和37年		浅利			
	289	ふじ屋 食堂	昭和34年	江ノ島	荒井よし			
	290	三洋舎ランドリー クリーニング	昭和37年頃					
	291	北 尾 金物店	昭和35年頃					
	292	湘 南 塾	昭和30年代					
	293	民 生 産業	昭和30年代					
	294	川 澄 医院 内科医院	昭和36年			福田病院の貸し医院で診療		
	295	立 花 寿司 寿司製造 販売	昭和36年	大 阪	阿部耕士	鵜沼百貨店で10円持ち帰り寿司を始めた、昭和41年現在地に50年代に駅北側に支店開設		
295	④ 鵜沼百テナント①魚いくテナント							
296	石渡レコード店	昭和34年		石渡				
296	④ 鵜沼百テナント							
297	八 幡 精肉店	昭和33年頃						
297	④ 鵜沼百テナント⑤ グリーンテナント							
298								
299								
300								
昭和 和 五 十 年		昭和50年（1975）以前 [S41～S50]					出店	
	301	サンシャイン クリーニング	昭和46年		榊原			
	302	平 塗装店 塗装一般	昭和45年		平 昌憲			
	303	華 月 和菓子店	昭和49年	山 形	片倉英一	平成4年に 7-17-15に移転		
	304	清 野	昭和40年代					
	305	ゆう子の店	昭和40年代					

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧銀座通り） 出店年代順リスト							
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代 備考
昭和 五 十 年 以 前 （ S ）		昭和50年（1975）以前【S41～S50】 出店 続					
	306	福井米店	米穀類、灯油	昭和46年	静岡	福井武朗	
	307	アラベスク神戸		昭和40年代			
	308	相鉄 ストアー スーパーマーケット		昭和47年	横浜		
	309	現 そうてつローゼ ⑬ 大勝ビルテナント		昭和45年	栃木	田代恵子	トシコ
	310	熊沢酒店支店	酒 食料品	昭和50年	新潟	布施猛久	
	311	東京電器鵜沼支店		昭和40年代			
	312	鳥 一 とりやきもの		昭和40年	山形	本間清志	
	313	①魚いくテナント					
	313	植木生花店		昭和50年頃			
	314	①魚いくテナント					
	314	手芸アングラ		昭和48年	西富	安斎こう子	
	314	現 アングラ					
	315	今井 玩具店 おもちゃ プラモデル		昭和44年	横浜	今井 博	
	315	現 おもちゃの店いまい					
	316	飯田 青果店 青果物小売り		昭和40年	西俣野	飯田昌明	昌好
	316	②平和堂ストアー					
	317	鈴木精肉店 精肉販売		昭和45年	千葉	鈴木正一	
	317	②平和堂ストアー					
	318	魚 治 鮮魚 貝類販売		昭和42年	静岡	坂口時代	治男
	318	②平和堂ストアー					
	319	日の丸電化センター 家電製品販売		昭和40年代			
	320	八百寿商店 青果物小売り		昭和46年	藤沢	高橋忠男	
	320	④八百徳ビルテナント					
	321	栄光学院 学習塾		昭和40年代		石橋 透	
	321	④八百徳ビルテナント					
	322	税理士事務所		昭和49年	静岡	鈴木康太	
	323	ブティック テル 婦人 洋装品		昭和48年	川崎	坂本昭一	
	323	③富久屋テナント					
	324	マリ洋装店		昭和40年代			
	325	山田工務店		昭和40年代			
	326	大栄商事 東京ガス特約		昭和40年代			
	327	アタカ スポーツ		昭和40年代			
	328	御 園 和菓子店		昭和43年	鵜沼	広浜邦夫	
	329	㊦ グリーンストアー テナント		昭和42年		鈴木吉英	留吉
	329	マーケット					
	330	みよし楽器店 レコード 楽器		昭和40年代			
	331	宝飾店 チコ 宝飾品 貴金属小売		昭和50年	鵜沼	加藤智之	創業は 2-7-4 で53年現店舗 2-6-2 に移転
	332	モンテロ洋裁店		昭和40年代			
	333	アトム 産業		昭和40年代			
	334	スーパースズキヤ		昭和43年	逗子		
	334	○鵜沼山田ビルテナント					
	335	神戸屋パン パンベーカリー		昭和49年	横浜	長崎秀吉	
	336	ヤマハ音楽教室		昭和40年代			
	337	あづまや 玩具店 カラープリント		昭和44年		富山栄一	
	338	運 河 割烹料亭		昭和44年	富山	河井郁子	
339	電熱理研		昭和40年代				
340	木村クリーニング		昭和46年	藤沢	木村俊二		
340	現 クリーニング キムラ						

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧銀座通り） 出店年代順リスト							
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代 備考
昭和五十年以前 (S41～S50)		昭和50年（1975）以前【S41～S50】 出店 続					
	341	理容 マルヤ	理容一般	昭和40年代			
	342	酒場 いしかり		昭和40年代			
	343	栄太郎 鮎	寿司飲食	昭和50年	宮 城	佐々木 栄太郎	いしかりの跡に出店、平成8年現在地2-6-3 に新築開店
	344	日本人形の店	みうら	昭和43年	鵜 沼	三浦元子	三浦医院々長未亡人が開店
	345	カ シ ミール		昭和40年代			
	346	新 和 電 設	電設工事業	昭和40年代	藤 沢	加藤	
	347	安 医院	内科医院診療所	昭和40年代	鵜 沼	安 武四郎	本院は松が岡4-6-9
	348	斎 藤 医院	内科小児科医院	昭和42年	新 潟	斎藤 敬	
	349	美容院 らん		昭和40年代			
	350	石 川 ドレス	婦人服店	昭和40年代			
	351	十字屋	薬局	昭和40年代			
	352	三 共	クリーニング（取次所）	昭和40年代			
	353	川 南	歯科医院	昭和40年代			
	354	一 翠 園	茶店	昭和40年代			
	355	赤 ベン	食 堂	昭和40年代			
	356	パーラー アルチリーベ	喫茶店	昭和48年			
	357	⑬ バザールデ・マール	趣味雑貨	昭和48年			
	358	⑬ 鵜沼山田ビル	賃貸ビル管理	昭和42年		山田	初代テナント スーパー スズキヤ 現コンビニエントストアファミリーマート
	359			昭和 年			
	360			昭和 年			
昭和六十年以前 (S51～S60)		昭和60年（1985）以前【S51～S60】 出店					
	361	シャレード・シマ	婦人服ブティック	昭和50年代			
	362	サンドール鵜沼店	調理パン製販 (サンドウィッチ)	昭和52年	鵜 沼	関根佳代子	
	363	ウェイブ・アイランド	サーフショップ	昭和50年代			
	364	シッド・ウェイブ	サーフショップ	昭和56年	鵜 沼	石川勝次	魚勝石川の3代目
	365	カンダスタジオ	写真館 フィルム DEP アルバム	昭和56年	藤 沢	神田 実	美智子
	366			昭和 年			
	367	ブティック・アルル	婦人服 洋装	昭和59年	大 阪	奥 信彦	
	368	トマト・プランツ		昭和50年代			
	369	高石動物病院		昭和61年	東 京	高石直人	
	370	花 菱		昭和50年代			
	371	アンダンテ	喫茶店	昭和60年	静 岡	小田元愛子	
	372	セブンイレブン（コンビニエント） （鵜沼商店街）（フランチャイザー）		昭和53年	鵜 沼	斎藤光久	〇代々この地区一帯の地主
	373	寿司 茶月	持ち帰り寿司	昭和53年			
	374	フローラ美容室	美容一般	昭和53年	鎌 倉	安西昌江	

鵠沼海岸商店街（現マリンロード、旧銀座通り） 出店年代順リスト									
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	初代	備考	
		昭和60年（1985）以前【S51～S60】						出店 続	
昭和 十 年 以 前 （ S ）	375	あけび ○K・Gビル2F		昭和50年 代					
	376	藤沢信用金庫鵠沼支店 現 三浦藤沢信用金庫鵠沼支店	金融	昭和57年	藤 沢	村松洋三			
	377	西脇画廊 現 湘南西脇画廊	美術品販売	昭和57年	東 京	西脇成治			
	378	アイロン クリーニング		昭和58年 頃		桜井洋一			
	379	シャレード レストラン		昭和50年 代					
	380	チャオ ブティック		昭和50年 代					
	381	徳 江 寿司 ④八百徳テナント	寿司製販	昭和55年	宮 城	徳江正隆			
	382	サンドウィッチ ロッキー	店売宅配	昭和50年 代		漆原誠			
	383	ファンシーショップ ノア ⑤シーサイド鵠沼館テナント	洋装雑貨	昭和50年 代					
	384	青葉地所 ⑤シー鵠沼テナント	不動産販売 斡旋	昭和61年	茅ヶ崎	山岸宏章			
	385	チャイルド・ショップ BeBe ⑤シー鵠沼テナント		昭和50年 代					
	386	ペン・ステーション Zip ⑤シー鵠沼テナント		昭和50年 代					
	387	パーラーひまわり ⑤シー鵠沼テナント2F		昭和50年 代					
	388	レコード・メロディ ⑤シー鵠沼テナント2F		昭和50年	福 島	山田美樹子			
	389	モンタボーのパン鵠沼店 石井ビルテナント		昭和56年	東 京	佐々木正樹			
	390	弥生学習塾 はせがわビル2Fテナント 現 S P S	進学塾 鵠沼 湘南アルファ学院	昭和50年代		森 隆			
	391	ウッド・ランド ⑥関根ビルテナント	洋食惣菜店	昭和50年 代					
	392	ケンジ 美容室 ⑥関根ビルテナント	カット&パーマ 現 B-Line 美容室	昭和50年	藤 沢	渡木 亮	関根ビルに出店、インプレッションに店名替 平成11年 2-2-11 の現店舗に移転 B-Line に		
	393	ラ・メール ⑥関根ビルテナント	喫茶店	昭和60年	青 森	斎藤多賀子			
	394	プ チ 工房 ○御園の2F（メル鵠沼ビル2）	手芸教室	昭和50年 代					
	395	アンの部屋 鵠沼店 メルヘンハウス	婦人 子供服 ファッション雑貨	昭和60年	浜 松	中村 眞			
	396	ネイム・チャン	スナック	昭和50年 代					
	397	明 耕 電設	電設工事全般	昭和54年	北海道	柴田利治			
	398	黒田鍼灸療院		昭和51年	福 岡	黒田伸二			
	399	鵠 南 薬局	処方箋調剤薬局	昭和60年	山 形	辻 繁也			
	400	リード洋品店		昭和50年 代					
	401	フジサワ蜂研	はちみつ小売り	昭和50年 代					
	402	疋田クリニック	内科 胃腸科、外科	昭和52年	疋田達雄				
	403	松が岡 薬局	処方箋調剤薬局	昭和60年	藤 沢	早川ヒデ子			
	404	ベティ美容院		昭和50年 代					
	405	M&A 喫茶		昭和50年 代		牧田蓉風			
	406	勝 俣 歯科医院		昭和50年 代					
	407	ビービーエム ホームズ	建設設計	昭和50年 代					
	408	若 菜	スナック	昭和50年 代					
	409	こっとんてーる	スナック	昭和50年 代					

鵜沼海岸商店街（現マリンロード、旧銀座通り） 出店年代順リスト							
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名	備考
昭和60年（1985）以前【S51～S60】 出店 続							
昭和 六十 年 以 前 (S 51 ～ S 60)	410	大 和 工芸		昭和50年 代			
	411	工 藤 青果店 ㊦ グリーンストアテナント		昭和50年 代			
	412	味 富 惣菜店 ㊦ グリーンストアテナント		昭和50年 代			
	413	ふらんす屋 喫茶 スナック		昭和53年	横 浜	中田美佐子	
	414	と き わ 和菓子店		昭和53年			
	415	シオザワ スポーツ サッカー用品 一般スポーツ用品		昭和50年 代	鵜 沼	塩沢	
	416	ブティック グレ 婦人服 洋装		昭和50年 代			
	417	割烹 くるま 飲食店		昭和51年			
	418	藤みやび 京呉服販売		昭和51年	愛 媛	平沢儀見	
	419	ほ え む 洋装店		昭和51年			
	420	ショップショップ サーフショップ		昭和56年	東 京	蔭山幸治	
	421	たんぼぼ スナック		昭和50年 代			
	422	鍼物療院フジタ		昭和60年	北海道	藤田敬三	
	423	山百合画材 絵画材料 額		昭和50年 代			
	424	鵜栄堂新聞舗 朝日新聞販売店		昭和55年	藤 沢	関根秀彦	
	425	大虚堂書店 古書籍売買取業		昭和55年	鎌 倉	高山惣次郎	
	426	やきとり庄兵衛 やきとり 飲食店		昭和50年 代			
	427	クック キャロット キッチン レストラン		昭和56年	東 京	平田 皓	
	428	サンロード美容院 美容一般		昭和53年	山 口	岡島伸次	
	429	ふじ乃寿司		昭和60年	石 上	藤田眞一	なにわ寿司を引き継いで創業、平成9 年に7-13-13 に新店舗開店
	430	ラ・ローザンヌ 洋菓子店 鵜沼店		昭和55年	東 京	石渡俊文	
	431	かつはな とんかつ割烹		昭和55年			
	432	サコム通商		昭和50年 代			
	433	早稲田教育学園 学習塾		昭和50年 代			
	434	立花寿司支店 寿司 会食		昭和55年	鵜 沼	阿部義弘	3-5-8 の立花寿司の支店
	435	オリジナル園芸店 園芸用品 鉢物		昭和54年	和歌山	岡地伸二	平雄
	436	安 房 屋		昭和50年 代			
	437			昭和 年			
	438			昭和 年			
	439			昭和 年			
	440			昭和 年			

鶴沼海岸商店街(現マリンロード、旧銀座通り) 出店年代順リスト							
年代	コード	店名	商い	出店年	出身	店主名 初代 備考	
(S 61 ~ H 12)		平成12年(2000)以前 [S 61~H 12]				出店 続	
	474	中国料理 来夢亭	中国料理	昭和63年	千葉	鈴木佳久	
	475	⑦M&Kビルテナント					
	475	ロッカールーム	雑貨・オリジナルTシャツ・ブラジリアーナ	昭和63年	鶴沼	塩入明久	
	476	マイハウス建設	建設業	昭和63年	鶴沼	三浦義博	
	476	⑦M&Kビルテナント					
	477	快鍼治療院	鍼治療院	平成12年	鎌倉	都留武春	
	477	⑦M&Kビルテナント					
	478	野沢医院	内科・循環器科	昭和63年	山梨	野沢達郎	
	478	⑦M&Kビルテナント					
	479	ホームアツクス・スポーツ用品店	サーフショップ スポーツ洋品販売	平成11年	鶴沼	塩坂源一郎 信康	
	480	ジャッキ	飲食店 とんかつ ステーキ	平成3年	府中	小林光子	
	481	花うさぎ	ブティック	平成11年	東京新橋	高松麻子	母店はインテリアの高松
	482	BAR マハロ		平成5年	愛媛	谷古宇純子	
	482	④八百徳ビルテナント					
	483	(株)トータルメンテナンス	建築業	平成10年	宮城	片桐一義	
	484	7パレット・プラザ D・P・E フィルム		平成10年		山本千勝	
	484	鶴沼海岸店(フェーズ) ○ピア山上ビルテナント					
	485	B O S S Limpide	美容院	平成10年	東京	吉村繁雄	
	485	○ピア山上ビルテナント					
	486	花定	生花店	平成10年	栃木	定方晴夫	
	487	ボタニカル・バーン	庭・園芸 販売 ガーデン設計・施工	平成8年	藤沢	野坂不二夫	
	488	御京 樽	箱寿司、弁当	平成6年		松井美鈴	
	488	鶴沼海岸店(ファーストフード) ⑨丸政ビルテナント					
	489	サブウェイ	飲食業	平成6年		岩佐英一	
	489	鶴沼海岸店(ファーストフード) ⑨丸政ビルテナント					
	490	シルクシャワー	ブティック	平成8年	北海道	中田幹男	
	490	⑤シー鶴沼館	婦人服小売				
	491	創造ギャラリー・カ・れい	工芸品販売	昭和61年	鎌倉	増田れい子	
	491	⑤シー鶴沼館					
	492	富士銀行キャッシュデスペンサー					
	492	⑤シー鶴沼館					
	493	ilo cafe(アイオーカフェ)	喫茶店	平成10年	茅ヶ崎	辰巳千賀子 準也	
	493	⑤シー鶴沼館	パソコン				
	494	耕書堂	古書籍販売	平成4年	東京	西原茂男	
	494	○デュエットバルテナント					
	495	お食事・酒処 やしち	江ノ島直送の 地魚料理	平成4年	江ノ島	小川裕之	
	495	○デュエバル					
	449	HANA-CLUB くげぬま	生花フラワーアレンジメント	平成6年	腰越	鈴木寿江子	マリンロード店の姉妹店
	449	○デュエバル	花市場 鉢物				
	496	マール	飲食店	平成11年	兵庫	辰巳博信	
	496	レストラン					
	497	gallery GAZEBO	画廊	平成7年	鶴沼	井上かほる	
	498	FLIPPER BLUE KID'S WAER		平成11年	横浜	高村秀人	
	498	⑥関根ビルテナント					
	499	Barba(バルバ)	南イタリア料理	平成6年	藤沢	石原光太郎	
	499	⑥関根ビルテナント					
	500	遠見 歯科医院	歯科	平成1年	茅ヶ崎	遠見 亨	
	500	⑥関根ビルテナント					
	501	i f	スナック・カラオケ		北海道	藤田敬三	
	501	○メル鶴沼ⅡF					
	502	GLASS	ステンドグラス・飲食店 同上教室	昭和61年	鎌倉	徳増眞理子	
	503	スプローザ	婦人服・下着	平成1年	島根	米沢晰彦 慶美	
	504	医療法人 ありあけ内科		平成10年	東京	酒井天栄	
	505	呉クリニック	内科・胃腸・肛門科 外科・甲状腺乳腺科	平成5年	長野県	呉 吉煥	
	506	ジンジャー	スナック	平成4年	鶴沼	鶴野朝子	
	507	広瀬治療院		昭和62年	東京	広瀬 徹	

座談会 わが商店街の 歴史を語る

出席者（アイウエオ順 敬称略 「」内は屋号 数字は生年）

有田 裕一	（「有田商店」	昭和12年）
榎本 一男	（「たまや文具」	昭和7年）
片野 正勝	（旧「片野玩具」	大正15年）
鯨井 義一	（「銅元板金」	大正14年）
榛葉 敏行	（「八百力」	昭和3年）
浜野 勇三	（「浜野牛乳店」	昭和14年）

川上恵久「鵠沼を語る会」会長 今日はまだお店をやっている時間にもかかわらず、わざわざおいでいただきまして心より感謝申し上げます。

この鵠沼は、近年あまりにも移り変わりが早く、今のうちに皆様方に伺って記録に残さないと、当時のことを知っている人がいなくなってしまう、そういう心配もございまして、ぜひ鵠沼の商店街の今昔についてお話をいただきたいということでお願いしました。せっかくの機会ですので「鵠沼を語る会」の会員もいろいろ疑問な点などを質問をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

有田 まずこの商店街が形を整えてきたのは何年頃なのかということからおたずねいたします。

片野 私は昭和10年の11月に江ノ島から現在のところに引っ越してきました。その頃にはもう商店はたくさんありましたね。昭和23年に「鵠栄会」の会費を集める役をやりました。その時には準会員の方を含めて120軒ありました。

有田 会費はいくらだったんですか。

片野 覚えていません。昭和27年までやったんですが、集めるのに2、3日か

かりました。大工さんとかは準会員だったんです。

会員 今現在何軒あるんですか。

鯨井 194軒です。23年当時の倍近いですね。昔はテナントで入っているような人は少なく、地付きの人が多かったねえ。

会員 当時としては120軒というのはけっこう多いですね。

鯨井 多いですよ。藤沢の銀座通りに次ぐ軒数でした。

浜野 今片野さんが言われた昭和22、3年頃は小学校へ行くか行かないかの頃でしたが、120軒の商店街端から端まで人で歩けないくらい商店街は発展していました。夕方などは買い物客がいっぱいで10メートル先が見えないくらい、そんな盛況ぶりでした。

有田 八百屋さんや魚屋さんの前は黒山になっていました。

片野 当時は夜8時頃まで、夕涼みがてらの人でいっぱいでした。

浜野 御用聞き制度というのが各商店発達していて活発に取り組んでいました。それで店頭売りで御用聞き、両方で各商店は潤っていました。



(写真は商店街の歴史を語り合う出席者たち)

戦前はバスが通る

会員 120軒というのは戦後急に増えたものですか。それとも戦前からあったものですか。

有田 田辺政吉さんから大分前に聞いたのですが、「鵠栄会」という名前ができ

たのが昭和12年だということです。ですからその頃にはかなりあったんじゃないですか。

片野 「鵠栄会」というのは東の方を含んでいたから、今の海岸の商店街だけじゃあないんです。

有田 高木さん（高木和男「語る会」前会長）の『鵠沼海岸百年の歴史』によりますと、江ノ電の鵠沼駅の方から発展した商店街と、西の堀川から来た商店街が交差したのが今の郵便局のところ（注：平成12年現在の郵便局とは違う場所、鵠沼海岸1丁目）だった、とありますが、それはいつ頃の話でしょうか。

片野 戦前ですよ。郵便局はその前は佐藤別荘のところにありました。

有田 今言われた発生過程なんです。堀川の「山口屋」さんの方からだんだん海岸の駅の方へできてきたのと、東部から来たのが交差したのでしょう。

鯨井 小田急ができてからでしょう。できる前に百貨店みたいなものをやっていたのが「宝屋」（旧齊藤百貨店）さんです。

会員 有田さんはいつ頃からやられているんですか。

有田 父が5歳のときといいますから、大正3年くらいなのでしょうか。現在続いている店としては古い方でしょう。

浜野 家があそこ（牛乳店）を始めたのが昭和5年で、片瀬から来たわけですが、その時有田さんはちゃんとご商売をされていたそうです。

有田 曾祖父が薦職で別荘あたりに伝手があって商売ができるようになったと聞いています。

会員 すると写真に残っている「明月庵」（そば店）も大正なんですね。

有田 そうです。

会員 別荘生活を支えた商店ですが、基礎となるのはお魚と野菜でしょうが、例えば八百屋さんの中で一番古くからやられていたお店というのはどちらでしょうか。

榎本 「八百力」さん、「八百徳」さんでしょう。両方同じくらいでしょうか。昭和4年に小田急が通った時分からだと思います。

有田 小田急が通る前は江ノ電の鵠沼から歩くか人力車だったですから。秋津さんが人力車をやっていたね。

榎本 秋津さんは後なんです。その前は今の「マリヤ」さんのところ、「中屋旅館」と「鵠沼饅頭」の間に人力車がありました。

片野 一時「輪タク」もあったんですが、その前が人力車だったですね。

鯨井 この商店街を江ノ電のバスが通っていたんです。藤沢駅から旧国鉄（当時

の鉄道省)の海の家まで片帆橋のたもとが終点です。昭和12年頃にはありました。

浜野 あの本バスは木炭で走っていて、商店街の真ん中で故障して止まったりして、周りの人がバスを押したりなんかして往生したことがあります。

小田急開通で変化

有田 お手元の地図(特集①参照)を参考にしてお話を願えませんか。120軒くらいあったといわれた当時のものです。

会員 「魚久」さんのところにタクシーがありますね、中屋旅館の隣のところに「青柳タクシー」というのが、これはいつごろまでありましたか。

有田 昭和10年過ぎにはありました。

片野 小田急が開通した昭和4年よりあとに始めたのではないのでしょうか。

会員 芥川龍之介が書いている「歯車」の中に主人公がタクシーに乗る場面があります。大正15年から昭和元年ころのことと思われます。

鯨井 その頃は「江ノタク」と「根岸」しかなかったみたいです。藤沢の南口が「江ノタク」、北口が「根岸」で、海岸に入ってくるとしたら「江ノタク」だろうね。

会員 「江ノタク」が客待ちをする場所があったのでしょうか。

鯨井 私が覚えているのは中屋さんの車庫で、車が2、3台入れるものがありました。

有田 地図に「異人館」というのがありますが、これについて覚えていられますか。外人が住んでいたということですか。

鯨井 ステンドグラスというのかそれが家の正面にあったんで、それで異人館と言ったのではないのでしょうかね。外人が住んだということではなく家の造りが異国風だったんですね。

会員 さっきも話に出た秋津さんの人力車ですが、20年の地図を見ると書いてありますね。このころまであったのでしょうか。

浜野 27、8年くらいまでありましたが、車は置いてあるだけで動かなかったです。

片野 小田急ができてからもう人力車はだめになりました。

有田 今は商店街は舗装されていますけど、いつごろからですか。

鯨井 鵠沼で最初に舗装されたのは、広田弘毅外務大臣が鵠沼に住んだときで、

江ノ電の鵠沼から広田さんのところまで、アスファルトで1週間くらいで舗装したんです。

片野 商店街の舗装は戦後になってからです。

有田 「鵠^{こうでんしゃ}電社」の隣に火の見があったんですね。それにもう一つの火の見が今の浜野さんの向かいにあったわけですが、このようにひとところに2個所の火の見があるというのは珍しいんじゃないでしょうか。

鯨井 昭和23年に警防団から消防団に変わりました。それまでは分団に二つ班があったんです。西海岸と南海岸です。消防団ができたときには一つしか必要がなくなっただけです。南海岸にあったやつは建物の住まいの上にあったんです。

有田 木造の二階家の上にあったんですね。あれは太平洋戦争で鉄を供出してしまったので火の見がなくなって、元の消防小屋の上に作ったんですね。

榎本 戦争中は商店街の消防団の先輩たちが火の見に上がっていきなり米軍に機関銃で撃たれたりして、大変だったそうです。

仲悪かった西部と南部

有田 西海岸と南海岸という話が出ていますが、いつ頃からそういうふうに分かれてきたのでしょうか。

鯨井 西と南は仲が悪かったんです。それで戦後私たちが青年会を作って「西だ、南だと言ってないで同じ商店街だから仲良くしよう」ということでやっと一緒になったんだ、昭和34年でした。

会員 分かれたのはどういう訳があったんですか。

鯨井 勢力争い、派閥ですね。東部にも西にも南にも偉い人がいたんですよ、それが「ああだこうだ」と言うものだから商店街は年中トラブルが絶えなかったんです。昔は海岸の商店街は一つだったんですけど、そのうちに南部と西部を作っちゃったんです。

会員 御用聞き of トラブルというのがあったと聞いています。西部の方はなかなか御用聞きに入れなかったんでしょうが、東部の天金さんの向こう、別荘の近くに「渡辺酒店」さんを中心とした商店街があって、そこと南部が御用聞きのこととぶつかったと聞いています。東部では渡辺さん、南部では今のファミリーマートのところの「相沢商店」さんが別荘と多く取り引きをされていたようです。相沢さんは炭からなにからあらゆるものを扱っていたようです。

鯨井 相沢さんは辻堂の相沢商店の支店です。

有田 相沢さんのあとが伊藤さんになってそこに「東京のれん街」というのができました。寄り合い百貨店みたいなものです。

会員 「^{こうらく}鵠楽」さんというのは古かったでしょう、大正からですか。

榎本 大正までは古くないでしょうが、終戦後はあまりやっていなかったですね。戦中は通信学校の生徒などでにぎわっていました。

会員 「鵠楽」さんは後で瀬戸物屋さんになったんですか。

榛葉 瀬戸物屋さんは大石さんです。「鵠楽」さんは斉藤さんで息子さんがおられたんですが戦争中軍属として出られて亡くなりました。その妹さんに当たる方は川崎の方におられます。【追記参照】

駅前の松林の夏祭り

有田 駅の前は何もなくて松林だったでしょう。小さいときあの松林で映画などを見た記憶がありましたが、皆さんの若い頃あそこで芝居なんかをやられたんですね。

榎本 片野さん、鯨井さん、この二人は17、8歳の頃からやってたんじゃないでしょうか。お祭りという、この二人に楽しませてもらったんです。多種多芸で掛け合い漫才から芝居まで何でもこなす芸人でした。テレビも何もない時代ですから子供たちも夏祭りという楽しみにしていて、駅の前今の自転車置き場のところで私もずいぶん見せてもらいました。

会員 夏祭りはいつあったんですか。

榎本 8月1日からで単に夏祭りと呼んでいました。用意も何もみんな自分たちでやりました。

有田 どんな出し物がありましたか。

榎本 やじきた道中なんていうのがあったね。

有田 脚本は誰が作っていたんですか。

榎本 ぶっつけ本番ですか。

鯨井 いや、ぶっつけ本番なんかじゃできないよ。脚本を作ったんだよ。協力してくれた人がいたんだよ。

熊倉通りにいた子母沢寛（作家・脚本家）にじかに頼んだこともあってね、審査員してくれて。そうしたら出てきてくれて、お礼なんかは出せないし、お茶

だけ出して、それでしてくれたんだよ。

会員 芝居のほかにはどんな出し物があったんですか。

鯨井 のど自慢、芝居、漫才、一般の人に審査員になってもらって一等、二等を決めたんだよ。一本通りのダークダックスの哲ちゃん（遠山一、本名金井哲夫氏）なんかも出たんだけどあれは3位で俺が一等だったんだよ。そしたらあいつはプロになっちゃってね。ダークダックスといえはこの公民館ができたときに「こけら落とし」に来てくれと頼みに行ったんですよ。これはスケジュールが合わなくて断られたよ。

会員 その芝居というのはいつ頃までやっていたんですか。

浜野 昭和27年頃までかな。

鯨井 やり始めたのは昭和21、2年頃で「公園のひととき」というのと「やじきた道中・鎌倉」というやつだった。

榎本 こっちの二人（鯨井・片野）が「やじさん」と「きたさん」で、それで私が大仏さんです。二人が「大仏さんにお参りしよう」とやってきます。それでいろいろしているうちに、大仏が一人の頭をポカリと殴るわけです。それで二人が大仏の前でけんかをするというそういう筋の芝居でした。

会員 どこでやっていたのですか。

浜野 今の自転車置き場の奥に松林があって、そこにおみこしを置くところがあったんです。そこで芝居ができるように舞台を組んだんです。

会員 興行師がつれてくるような芝居もやったんですか。

片野 そういうのではなく、私らでやっていたんです。

会員 ひろっぱに舞台を組んだわけですね。

浜野 ひろっぱというほどのものではなくて、見る人は小田急の駅のところとかお店の前とかそういうところで見ていました。

片野 見物はいっぱいだったよ。

鯨井 堺俊二（喜劇俳優）、今の堺正章のおやじも来てくれて、あいさつしてくれた。あいさつだけならいいというので引っ張ってきて結局いろいろやらせちゃったんだ。でも鶴沼に松竹の大谷さんがいて、その息子の専務にめっかってえらい怒られて、謝りに行ったり大変でした。

いつまでやったかというのと昭和29年までだったんじゃないかな。いろいろなことがありました。米軍でバンドをやっていた若原一郎（歌手）がまだ名前の付いていないとき、キングの林伊佐雄の紹介で歌ったこともありました。

会員 そういう人はどういう伝手で呼んできたのですか。

鯨井 いろいろあったんだろうけど、藤沢の駅前に熱田さんという歯医者があったて、松竹の俳優さんがそこで歯を治してもらっていた、そういうことから紹介してくれたこともありました。

有田 夏祭りのみこしを男衆が化粧してかついでいたという記憶がありますが、当時はどこでもやっていたんでしょうか。

鯨井 他は知らないがここでは白粉なんかを塗っていたね。写真も残っています。

会員 当時の鵠沼には有名人も多かったようですね。

浜野 南の消防団の建物は公民館ができる前からクラブとして集会所のようになっていました。その二階に戦後、囲碁の坂田栄男さん（後の本因坊栄寿、平成12年2月引退）が長らく住んでいました。我々子供がいたずらをして怒られたものでした。

有田 出入りはけっこう自由だったんです。空襲警報の時など学校へ行かないで、あのクラブで勉強を教わったりしたものです。

浜野 クラブの縁の下に戦争中集めた米軍の空薬莢がたくさんありました。隠してあるんだけど子供たちが引っ張り出して遊んでいて、坂田さんに見つかってさんさん怒られて、庭に立たされたりしたものです。

会員 私はあの方に碁を教わりました。あそこで稽古をしていたのです。湘南学園の手前にある藤江さんという方に呼ばれて鵠沼にきたそうです。その後あそこを借りられました。

会員 商店街で花火大会をやりませんでしたか。

片野 一度だけやったことがあります。

なかなか消えなかった対立意識

会員 商店街の西部と南部はわりと仲が悪かったということでしたが、どういう経過があるのですか。

榛葉 張り合っていたんですね。私は西部なんですが、西部にはおみこしが無い、南部にはある。そのおみこしで南部は祭りをするものだから、西部は芝居をするとか、例えば道の普請にしても西部は西部の人たちだけで日を決めて商売を休んで皆で道路工事をする、といった具合でした。堀があって私たちは「どぶ川」と呼んでいましたがそれも年1回全員で清掃しました。

有田 おみこしのことですが、東部の方に賀来神社がありますね。そこのおみこしを借りて担いでいたという話を聞いたことがあります。南部のみこしは昭和1

2年に作られて今は伏見稲荷さんの方へいっています。そのみこし小屋は先ほど出ましたクラブのところにありました。

浜野 子供の頃、今の布施さんのお宅のあたりで若い衆が東部のみこしと南部のみこしをぶつけっこしているのを見た事があります。張り合っていたんだね、すごい勢いで恐かったので遠くから見っていました。

会員 「富久屋」さんのところが西部と南部の境目でしたか。

片野 大体は海岸の駅から東が南部ということだったんですがはっきりとした境があったわけではなく、入り乱れていたんです。というものの勢力争いみたいなのがあったんです。

戦後西の青年会が「鵠西会」というのを作ろうというので、ある人に相談したところ「鵠沼の西では心が狭い、鵠青会にきなさい」ということになりました。第1代の会長が加藤さんという大工さん、第2代の会長がここにいる鯨井さんでした。南部の人にも皆呼びかけて「鵠青会」ができたわけです。

浜野 一種の手打ちみたいなものですか。

片野 そうですね。でもそれからでも西部、南部という意識は当分は残っていました。

鯨井 今考えてみると戦前は軍人さんが町会の長をやっていて、そこからいろいろな問題が起きたのではないかとも思えます。

榎本 今でもそういうことはあるんじゃないか。東の賀来神社のお祭りだって伏見稲荷を意識してますよ。まあいい意味で張り合うというのもあります。

清流だった引地川

会員 片瀬の海中みこしに鵠沼からみこしを持っていかれましたか。

浜野 一回だけあったような記憶があります。正月あけの15日神社庁の主催で行われたものと思います。

会員 海水浴場は以前は今のプールガーデンのところでしたね。

榎本 昔の西浜のところには1軒か2軒小さな海の家があったきりでした。終戦後ですが、波打ち際までジープなんかで行かれたものでアメリカ人に人気が出て、一気に開けました。それまでは今の西浜海水浴場で泳ぐ人はいませんでした。

浜野 今のプールガーデンのところに市営プールがありました。そこに市営の海の家があって、横浜から看護婦さんが来て、シャワー設備もあり、麦湯も無料でいつでも飲めるようになっていました。

会員 引地川の話が出ましたが、昔は鉄道省の「海の家」にむかって木の橋がかかっていました。

榎本 夏毎に掛けていました。戦前の話でしょう。

榛葉 冬に西風が吹くと辻堂の方から砂が猛烈に飛んできます。引地川の河口で見ていると砂がどんどん川に落ちるわけです。それで埋められて河口は東の方へ移ります。そして梅雨どきになって水嵩が増すとその勢いで川がまっすぐになるということもあったし、ある年にはそのままということもありました。ですから大きく蛇行した年には橋が掛けられたのです。

私たちは夏でも冬でも引地川に魚をとりに行きました。蛇行したところから河口までの間ではイナがいっぱい取れました。戦争前にはウナギでもアユでもいっぱいいました。戦後になると川底に藻くずみたいなのがいっぱい溜まりはじめたんです。上流に焼酎の会社がありまして、でんぷん粕かなにかを流すようになって川がすっかりきたなくなっていました。それまでは川は透き通っていました。たとえばウナギの稚魚ノウメンコはいくらでもいたんです。

会員 ノウメンコはソウメンコとも言って、今で言えばシラスウナギです。それが堀川の堰のところではもう10センチくらいになって、黒みを帯びて、それが2メートルくらいの堰の壁をいっぱい上っていました。

浜野 今どんぶり一杯で5万円もするそうです。

会員 今の熊沢さんの近くの益田さんというお宅があつてそこに大きな池があつたんです。小田急の線路の脇に水路があつて鯉取橋のところからウナギが上がってきて、その池に大きなウナギが沢山いました。その池でウナギを釣ったし、夜、線路の脇を懐中電灯で照らすとウナギがいて、やすで突いてとりました。その頃（戦争末期）は小田急も単線になっていたので危なくないんです。

榛葉 昔、業者が来てわらで作った道具を川に入れておくとソウメンコがいっぱい入っていたものです。

浜野 モクタガニもよくとったものです。大きいのがいました。あつという間にいなくなっていました。

榛葉 川の汚れが原因でしょう。

会員 日本精工が皇大神宮の脇の溝から上村の引地川に排水を流していたんです。

浜野 きれいな川で子供たちは鵜沼橋から飛び込んで遊んだものです。

高齢化進む商店街

有田 別荘の女中さんですが、遠くから来られた方もいるでしょうが、近在の遠藤や用田、御所見あたりの農家から来られた方もいましたね。

浜野 当時郵便局で交換業務をやっていたので、これも近在から20人くらいの若い娘さんが働いていました。

榛葉 せっかくですから商店街の各お店が何年頃始めたかというのを記録に残したいですね。ここにあります作成中の図面に例えば有田さんなら大正何年とかです。

有田 現在あるお店はいちいち聞くことができるでしょうが、すでに何年か前に閉めてしまったお店などはなかなか難しいでしょう。

榛葉 そうですね。でもその記録もわかるだけでも調べたいですね。

会員 ところで榛葉さんの「八百力」さんはいつころ来られたんですか。

榛葉 親父は原、本鵠沼の出身なんです。姉（長女）が大正12年に生まれています。それ以前というのは確かなんですが、正確な年はわかりません。

会員 ここにおられる方のお店は大体大正からですね。

榛葉 一番古いのは多分有田さんだと思うんです。あと「宝屋」さん、あそこは相当古いです。あちらにも声をかけて調べてみようと思います。

会員 杉山のお豆腐屋さん、これはあまり古くないのですか。

榛葉 長谷川さんがその後ろ方で豆腐屋さんをやっていまして、長谷川さんが今の場所に移られて杉山さんが現在のところでやりましたが、これは終戦後ではないかと思います。この2軒は親戚同士で杉山さんの奥さんが長谷川さんのお姉さんです。

長谷川さんのご長男は戦後豆腐屋さんを弟さんに譲って、自分では不動産をやりました。その店の脇で奥さんがクリーニング屋の預かりを始めたんです。それが今ではあんなに大きくなったんです。

会員 商売をやめられた方も多いようですが、その方達について聞かせてください。

榛葉 「魚勝」さんは奥さんが亡くなられてやめたんです。この間お会いしたらもう20年になるそうです。これからの商売はとても厳しいですから、商店街を歩いていただいてもわかりますように、人通りが少なくなりました。3店もスーパーができまして人の流れが変わってしまいました。こういった状況で黒字を維持していくということは並々ならぬ努力がいると思います。そういったこともあって後継者もなかなかできないで商店主も高齢化が進んでいます。

会員 昔からやっていたお店でやめられた方というのはどのくらいおられるので

すか。

片野 終戦直後からいったら三分の二はやめたんじゃないでしょうか。

会員 「城田」さんという自転車さんは戦前からですか。

鯨井 戦後ではないかと思います。戦前の自転車屋さんは堀川の「山口」と海岸の「田代」さんではないでしょうか。

浜野 本鵠沼の商店街は車の抜け道みたいになってしまって気の毒は気の毒なんです、あそこは海岸と違って地持ちの人が多いんです。こちらはお家賃を払って商売してるんですが、これはどちらがよいということは分かりません。地持ちですと商売が消極的になる部分もあります。ここでも若い人が家賃を払ってどんどん商売をするようになって欲しいです。

会員 浜野さんのご商売はどうですか。

浜野 牛乳屋は昭和30年代にスーパーが1リットルパックというのを始めて大ショックに見舞われました。藤沢でも全盛のとき200軒あった牛乳屋が30軒になってしまいました。最近、ビン入りの牛乳が特に高齢者に支えられて何とか商売になっているんです。

まあ商売というものは百年近くやってるからよい、70年もやっているからよいと言うものではありません。新しい時代に対応していく必要があります。

会員 「亀屋」さんというお菓子屋さんも古いですね。

榛葉 小田急ができた昭和の初期からでしょう。「富久屋」とさんと並んでお菓子屋さんとしては古いですね。

熊倉通りのいわれ

会員 「一木通り」は一木與十郎さんから来ているのは分かっているんですが「熊倉通り」という名前も熊倉さんから来ているのでしょうか。

榛葉 そうだと思います。昔登記簿を調べましたら熊倉通りの田中小児科の北側に広い私道があってそこが熊倉さんという人の名義になっていました。

鯨井 聞いた話ですが戦前にその田中小児科のところに伏見稻荷を持ってこようという話があつて、派手な神殿みたいなものが作られたんですが、結局誘致に失敗をした。その話に熊倉さんという人がからんでいて、そのあたりに御茶屋さんみたいな施設を作る話、それがみんなだめになって熊倉さんもいなくなったようです。

会員 「天金通り」という名前は古くからあるんですか。

鯨井 あれは終戦後に勝手に付けたんだよ。火災があったときに消防署に通報するので「天金の前の通り」と説明していたらいつの間にか「天金通り」ということになってしまったんです。

有田 あそこは昔「東仲通り」というちゃんとした名前があったんです。

浜野 そうだったけど、いまは「天金通り」の方が有名だよな。

内藤（語る会） 昔は有田さんの横「仲通り」がメインだったのです。

有田 海岸方面の突き当たりに「東屋」の正門があったので「仲通り」という名が付いていました。

鯨井 「一本通り」というのだってそんなに古くないよ。

榛葉 「一本通り」は昭和6年に一本與十郎さんが区画整理をしたので付きました。

鯨井 一本與十郎さんは退役軍人で町長なんかやっていたんだ。

会員 藤沢から鵠沼に来るのにどうやって来ていたんでしょう。

川上 私は新田から鵠中の横を通る道とか、一本松の踏み切りから堀川を抜ける道を通りました。

有田 今の天理教のところの先を左に曲がり今の湘南学園のグラウンドを突っ切る道、それと上岡のところから斜めに入る道も古いです。

有田 鵠沼名物で「鵠沼饅頭」というのがありましたが、どういうものだったのですか。

浜野 色は「江ノ島饅頭」みたいに茶と白、茶色の方は黒砂糖がすごくきいた饅頭でした。

内藤（語る会） この間藤沢文書館で福地さんの写真を調べていましたら、鵠沼饅頭じゃなくて「片瀬饅頭」として売っていて写真に写っているんです。あれは中野さんがやっていた「鵠沼饅頭」とどういう関係があるのかなあと思ったわけです。

浜野 饅頭屋としては中野さんのところが「片瀬饅頭」という名前でも売っていたんじゃないですか。

鯨井 中野さんは東久邇宮さんのところに入出入りしていて、いわば「東久邇宮御用達」だったので有名になったんです。

有田 饅頭に押してあった焼き印に覚えがありませんか。

鯨井 なにか模様はあったようですが....。

有田 中野さんは地元の人ではなかったようですが、町会議員もやられていました。

戦前からの店は20数軒

有田 現在あるお店で戦前から続いているお店を教えてください。「山口屋」さん「山上タバコ屋」さんは戦前からですね。それから「銅鹿」さん。

榛葉（語る会） 「あさば（浅場）」の糸屋さんは横浜から疎開して来られたんです。ですから戦時中ということになります。糸が統制物資だったころです。

榛葉 商売は替わっても「魚いく」さん、今はコーヒー店「コロラド」です。それから「中村屋」のおそば屋さん、昔はあの角にいたんです。

鯨井 角のころはそば屋をやっていないくて花屋さんだったんです。

榛葉 「みよし」洋品店さんは戦後です。

有田 「宝屋」さん、「八百力」さん、「片野」さん、「丸政食堂」さん、「銅関」さんですね。「鵜沼書店」、「番場米店」さんは昭和8年だと言われてました。

榛葉 市ヶ谷さんの「鵜沼薬局」、「富久屋」さん、「亀屋」さん、「ササキ」さんたちは戦争中に来られたんです。

鯨井 「城田」（自転車屋）さんのところも戦前だったと思います。

榛葉 「関根畳店」さんは今も二階でやっておられます。「渡辺文房具」さんは戦後です。

有田 「八百徳」さん。

浜野 そこからはもう「有田」さんまで下がっちゃうんじゃないでしょうか。

有田 「たまや」さん、「柳川理髪店」さん。

浜野 「柳川」さんは古いですよ。おじいさんの代からだから。

鯨井 床屋さんは「小林」さんだったんですが、小林さんが兵隊に行って柳川さんが来られたんです。

有田 あとは「浜野牛乳店」さん、それだけですか。

榛葉 「長谷川豆腐店」さんは場所が三回くらい変わっていますが、続いていることになるでしょう。

有田 いずれにしても20数店でしょう。

榛葉 「時宝堂」の時計屋さん、ここも昭和15、6年ころでしょう。

有田 さきほど出ました「鵜青会」ですが、会の歌があったと思うんですよ。あれを教えてくださいませんか。

浜野 私が覚えているのは「たまや」（榎本）さんが水泳の神奈川代表で昭和2

5年に名古屋で開かれた第5回の国体に行ったんです。その壮行ということで駅の前で「鵠青会」の旗を振って歌を歌っていたのを覚えています。

鯨井 旗もあったんだけど、今はどこに行ったのか、こんど調べてみます。歌は替え歌で詞は自分たちで作っちゃったんです。

片野 こんな歌詞がありました。「ここは湘南、海の町、沖じゃ大漁の波の音...
鵠青会の色男.....」

残したい戦死した商店主の記録

榛葉 商店街の歴史の中に戦争へ行って亡くなられた人たちの記録を残した方がいいのではないかと思います。もしその方達が戦死しなければご商売を続けられたかもしれません。例えば「内田屋」の酒屋さん、今の「セブンイレブン」のところに「山崎米屋」というのがあってその方も戦死しています。今の郵便局の前にあった「沼田食堂」さん、ここがなぜ商売をやめたのかというと長男が亡くなったからです、四郎さんと言われたと思いますが、その方は今の「みよし洋装店」さんのところで料理屋をやりながらタクシー会社を経営していましたが戦死されました。

「鵠楽」の斉藤さんの息子さん、いれば後を継いだと思います。「八百利」さんの次男、「田内パン店」の息子さん、他にもおられると思います。繰り返になりますが、その方達が生きておられたら商売を続けられたろうにと残念に思います。調べてみようと思います。

榎本 以前は店員さんを沢山使っていたんです。店員さんたちだけでバスで三浦半島へ行ったことがあるんです。バス一台が埋まるくらい店員さんがいたんです。昭和33年頃です。店主を含めない店員だけの慰労会です。

会員 今のこの商店街の正式名称は何ですか。

浜野 「鵠沼海岸商店街振興組合」です。

鯨井 モールになったときに市からの意向があつて振興組合という名前になりました、7、8年前です。

有田 通称「マリンロード」これはお客様からの投票で一番多かったものに決めました。

浜野 商店街に一個所くらい昔の松林が残っていればよかったと思います。いい思い出になるのにね。

榛葉 西部のクラブと南部のクラブを売ってこの公民館を作ったという話、先ほ

どもちょっと出ましたが、一般の皆さんはご存知ないでしょうね。

川上 そのいきさつみたいなものについて記録に残したいですね。鯨井さんがお詳しいんですか。

鯨井 そのいきさつというのがなかなか難しいんですよ。それはともかく、文部省に一番始めに承認されたのがこの公民館で、文部大臣賞を受けたんです。

川上 今後も鶴沼商店街をテーマにこうした機会を持てたらと思います。その節はまたご協力をお願いいたします。

今日は長い時間ありがとうございました。

(2000. 1. 23 鶴沼公民館)

〔追記〕今回の特集を取材中、「鶴楽」の息女久松梅子〔旧姓斎藤〕氏から会員の榛葉敏行氏（八百力）あて次のような手紙をいただいたので、ここにそのまま転載することにしました。

前略ごめんください。一昨日はお電話を下されありがとうございました。半世紀以上も前に、二十歳にもならないで逝った兄・長生のことを覚えていただきまして、誠に嬉しく存じました。厚く感謝申し上げます。

電話で申し上げましたが、「鶴楽」は昭和10年の開業、鶴沼に楽しみをという意味で飲食店を営みましたが、昭和25年に閉店廃業いたしました。その間、無事に営業させていただきましたこと、鶴沼商店街の皆様にご感謝いたしております。

ところで、鶴沼海岸のことを調べるに当たって、高木先生の書かれた本「鶴沼海岸百年の歴史」（1989年第三刷第二追補版）を参考にされることかと思いますが、同書には斎藤家のことにつき心外な記述がありますので、一言申し述べさせていただきます。

同書p 91の中ほどに、

(1)「郵便局の電報配達をしていた男（斎藤）がすこしことばがドモる………」とありますが、父は丹後舞鶴の出身でその地方のなまりがありましたものの、姉たちに聞いてもドモるようなことはありませんでした。それにつづく文章も愉快的な記述ではありませんが、

(2)「この男は後に郵便局をやめて、今の長谷川豆腐店のところに飲食店をひらいた。戦争で息子が船員として戦死………」、この息子が兄・長生ですが、戦争中に藤沢の飲食店組合から2名が輸送船の賄い夫として徴用され、昭和18年ニューギニアの海で船もろとも戦死したと聞いております。もう1名のお方は病気で船を降りて帰られたはずで

(3)「戦後、店を閉じてどこかへいつてしまった」のではありません。昭和23年9月に脳溢血で急死し、多くの方々に見守られて人並みの（身びいきで申しますと盛大な）葬儀を行ないました。その後、長女・次女は嫁に行っておりまして三女の私が店を継ぎましたが、思うところあって昭和25年に店を閉じ、当時お隣だった大石さんがその場所を瀬戸物の店になさいました。私は暫くここから東京の会社勤めに通っておりますが、昭和27年に結婚し（東京いすゞに定年まで勤務）、現在に至っております。

(以下略)

なお、この手紙を著者であり本会の前会長でもある高木氏にお見せしたところ、率直にご自分の誤聞であることを認め、ここに転載することを快く了承されました。（鈴木記）

「鶴沼を語る会」活動の記録

(平成12年4月～平成12年9月)

総務委員会

平成12年4月例会

4月12日(火) 10時～12時 21名出席

- 議題(1)来年度の会の運営について - 5月総会の前でもあり、会則の変更、会の組織及び行事等の運営について、会員より意見聴取した結果、より良い会の運営を計るために、新会員及び女性を含めた運営委員会を開いて皆で話し合うことになった。[(4月24日(火)に公民館で行い-新年度の会の活動につきアンケートを作成し記入してもらうことにした。]
- (2)会誌80号の発行について - 出席会員に会誌を渡し、欠席会員、他必要な配布先と配布担当者を決めた。
- (3)「東屋記念碑」設置に関する市役所担当者の異動について - 新年度になり新しく就任した安田公民館長、杉山参事兼生涯学習課長、水谷主幹、木下主査が出席され挨拶した。
- (6)その他 - 榛葉敏行会員より「鶴沼商店街の今昔」の変遷地図及び商店の歴史資料について調査結果の説明あり。

平成12年第14回総会

5月9日(火) 10時～12時 23名出席

- 議題(1)別紙「第14回総会議案書」の審議 - 全会一致で可決される。

(2)総会特記事項 - イ、田中まさ子会員死去され、全員で黙祷しご冥福を祈った。

ロ、前月の運営委員会にて決定した会の運営に関する意見書、入会申込用紙を出席者に渡し来月の例会に提出依頼する。

※総会終了後、高木顧問より鶴沼の歴史第一部として「鶴沼本村の歴史」を話された。

平成12年6月例会

6月13日(火) 10時～12時 19名出席

- 議題(1)会誌「鶴沼」81号について - 「鶴沼の商店街の今昔」を中心とする。

昔から、商店を陰で支えてきた女性を中心とした座談会の第2弾を、7月4日18時に行うことに決定(当日出席者、商店街-丸政夫人(田辺)、旧平和堂夫人(田内)、銅関主人(鯨井)、会側8名、商店街を中心にした昔話が語られた)

(2)商店街振興会事務所に歴史的資料提供について - 6月15日にオープンする商店街事務所に榛葉 敏、内藤両会員が調べた商店街の歴史的資料や写真を、有田、浅沼、杉本諸会員の協力を得て、7月初めに展示する。

(3)その他 - 鶴沼小学校30周年記念事業への展示資料を、6月10日に内藤会員宅に保存中のものから、担当者が選別して提供した。(記念事業の展示は7月10日に行われた)

新入会員 杉本辰夫氏、青木律子氏紹介。

~~平成12年7月例会~~

7月11日(火)10時～12時

19名出席

議題(1)史跡めぐりについて 一本年度の候補地として、東京馬込、鎌倉古道、辻堂地区等が挙げたが決定せず、検討事項となる。なお、実施時期は11月と決まった。

(2)会の活動に対する意見について 一先月回収した意見書の「まとめ」を全員に配布し、その内容に基づいて討議した。会員より様々な意見が出された。例えば、「鵜沼の水路と池沼」の共同調査研究、高瀬家や広田家に関する情報収集、調査等である。

新入会員 長谷川祐氏紹介。なお、同氏は「東屋」最後の経営者長谷川欽一氏の次男で廃業の経緯等について話された。

~~平成12年8月例会~~

8月8日(火)10時～12時

18名出席

議題(1)史跡見学について 一懸案の候補地を辻堂地区と決定した。詳細については川上会長が地区内の郷土史家に知人がいるので依頼して決める。

(2)公民館まつりについて 一「鵜沼商店街の今昔」に絞って行う。

(3)東屋記念碑等設置について 一7月21日に市生涯学習課で事前打合わせ会があり、会より、川上、鈴木 三、高三会員が出席して、記念碑等設置プロジェクト会議を9月12日に行うことになった。会側の出席者は従来の設置準備委員と長谷川新会員とする。

(4)公民館、探求クラブとの共催「防災を考える集い」について 一9月23日13:30～16:30にシンポジウム、会より高木顧問が関東大震災の体験談を語り、図書館前のロビーで震災関係の写真、地図、災害時必需品等を会の担当で展示する。(展示は19日～24日まで)
その他 一10月例会日、都合で10月17日第三火曜日に行う。

~~平成12年9月例会~~

9月12日(火)10時～12時

18名出席

議題(1)公民館まつりについて 一内藤会員より展示会場とパネル、机等の配置説明あり、テーマは「鵜沼商店街の歴史」とする。詳細は22日18時より実行委員会を行い決める。

(2)史跡めぐりについて 一11月14日(火)午後より辻堂南部地区にて行う。(都合で7日が変更され、11月例会は11月7日(火)午後1時～3時に変更された。)

(3)「私達の防災を考える集い」の展示について 一18日の展示物等の設置担当者、19日より24日までの午前、午後展示場にそれぞれ詰める当番を決めた。

(4)「鵜沼の渡辺邸と文化財を考える会」について 一文化財勉強会を9月20日に生涯学習課の水谷主幹の講師で行うので、会員多数の参加を呼びかけた。

(5)その他 一例会終了後13:30より「東屋記念碑等設置について」のプロジェクト会議が市側、佐江氏、小山氏、語る会準備委員計18名参加して行われた。

新入会員 浅野陽子氏紹介

【編集後記】

※前号で予告したとおり今回は「鵜沼海岸商店街100年の歴史」を特集しました。

当初は物語を中心に考えていましたが、やはり基礎的な地図と各商店の名称、屋号、出店年、出自などが、その歴史を語るうえで不可欠であることに気付き、本誌では先ずそれらの基礎資料の作成を試み、会員の方々並びに商店街の方々のご協力をえて、前例のない貴重な地図と表とが出来上がりました。

また、座談会には店主の方々にご出席いただき、これもまた貴重なお話を伺うことができました。商店街の皆様には深く感謝いたします。

これらの記事は「鵜沼を語る会」の後世に残る大きな業績になると信じます。

※本誌の『鵜沼の歴史的家屋をたずねて』もすでに6回になりました。

今回はかつて高瀬通りに聳え立っていた白亜の殿堂「ホワイトハウス」に実際に住んでいらした斉藤徹氏から貴重な記録をいただきました。

ありがとうございました。

しかし文化的遺産ともいえるこれらの大邸宅が、次々に消え去ることは、本誌のテーマとしては事欠かないものの、実際には悲しいことです。

(鈴木)

『鵠沼』 第81号

平成12年9月30日発行

本誌の記事引用の際は
ご連絡ください。

編集・発行 鵠沼を語る会

藤沢市鵠沼海岸2-10-3

鵠沼公民館内

電話0466-33-2001